

武蔵野市第四期長期計画調整計画

緑・環境・市民生活分野市民会議

第8回

平成19年1月9日（火）

武蔵野市役所 802会議室

- 日 時 平成 19 年 1 月 9 日（火）午後 6 時 30 分～午後 9 時 30 分
- 場 所 武蔵野市役所 8 階 802 会議室
- 出席者 石川委員、今木委員、河田委員、久木野委員、栗原委員、上月委員、
近藤委員、西園寺委員、島田委員、白石委員、瀬口委員、谷委員、富川委員、
長嶋委員、新垣委員、皆川委員、渡部委員、
小竹先生（アドバイザー）、事務局、傍聴者 4 名

午後 6 時 30 分 開会

1. 開 会

○小竹アドバイザー ちょっとまだずらっと欠席で、お見えになる予定なんですけれども、まだ着席されておりませんが、時間になりましたので、始めさせていただきたいと思いません。

改めまして、新年明けましておめでとうございます。この部会はクリスマスも正月もなく連絡をとり合っていたいただきまして、お手元に事務局が取りまとめたもの、それから担当のグループの方がまとめてくださった資料がいつていると思いますので、その資料を活用して、有意義な議論を進めていきたいと思いません。

それでは、第 8 回の武蔵野市第四期長期計画・調整計画、緑・環境・市民生活分野の市民会議を始めたいと思いません。

まず最初に、郵送で皆様のお手元にいつていると思うのですが、第 5 回の議事録につきまして、ご訂正がありましたら、よろしくお願ひします。

まず、事務局の方から。

○渡辺幹事長 事務局からは特にございませぬ。皆様方からあれば。

○小竹アドバイザー 発言などで間違つてとらえられている部分がありましたら、よろしくお願ひします。

○栗原委員 27 ページですけれども、長嶋さんがおっしゃったところで、今、いらっしやらないのですけれども、「さっき私、大型店のことをいいましたけれども、市の言い方が悪かったので」というのは「私の」の間違いではないでしょうか。市の方のご発言ではなくて、ご自分の言い方がちょっと悪かったというおっしゃり方をされたのではなかつたかと思いません。

○小竹アドバイザー 「さっき私、大型店のことをいいましたけれども、私の言い方が悪かったのですが」というふうにご訂正ください。そのほかございますでしょうか。

○栗原委員 もう1点よろしいですか。44 ページで、これは傍聴に来られていた三宅さんの発言の中なんですけど、ささいなところなんですけれども、「第2回の会議の中で」という段落で、「〇×式の」の1行下です。「市の担当部署から自分たちの仕事の中をもっと具体的に整理して」と書いてありますが、これは「中身」だと思うのです。

○小竹アドバイザー 44 ページの上から7行目、「こういうのがあるのだろうという自分たちの仕事の中を」を「中身をもっと具体的に整理して」でよろしゅうございますね。

そのほか、ご自分のご発言で意味が違っているところとかございましたら。

○栗原委員 2 ページの新垣さんのご発言の4行目、訂正なさっているところのご発言なんですけど、「1本 8000 円を1袋」に直す、その下の行、「1万 8000」の次に「円」を入れるというのは、「円」が入っていないところに「円」を入れるわけですから、手前に「円」が入っているのはおかしい。「1万 8000 の次に『円』を入れておいてください」ということになるのではないのでしょうか。細かくて失礼いたしました。

○小竹アドバイザー 正確に見ていただいてありがとうございます。7行目ですが、「1万 8000 円」というところを「1万 8000」とご訂正いただきたいと思います。

そのほかございますでしょうか。――それではご訂正が以上ということで、これで第5回の議事録を決定させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

そうしましたら、事務局の方から配付資料のご説明等をお願いいたします。

○渡辺幹事長 それでは、資料の確認をさせていただきます。きょうお配りしたものは、順番になっているかと思えますけれども、1つは「第7回 緑・環境・市民生活分野会議 12月12日 テーマ別議論『市民生活1』分野 討論内容メモ」、これは上月委員が作成なさったものでございます。これを本日はお配りをいたしております。

その次ですけれども、郵送で一度お送りしているのですけれども、プレイスに関する提言です。いわゆる提言書の追加版でございます。二重線のアンダーライン部分が、追加したものでございますので、こちらをお届けしてございます。

それと、ただいま第5回の会議録を確認で訂正させていただきましたけれども、12月6日にございました第6回の会議録でございますので、こちらの方はお持ち帰りいただきまして、ごらんいただきまして、また次回、20日の土曜日に冒頭に確認、承認をしていたらと思っております。

続きまして、これは以前に要望がございました犯罪のデータでございます。「刑法犯認知件数比較」というタイトルで、私ども安全対策課でつくったものでございます。そのままではまるデータがなかったということで、結果的にホームページとかいろいろなものから、いわゆる力わざで数字を引っ張ってきてつくったものになりますけれども、若干簡単に説明だけさせていただきます。

一番上、「区分」としては武蔵野市を一番左に置きまして、近隣市として三鷹市、小金井市と国分寺市。これは警察署の所管でしか数字が拾えないものでしたので、行政区ではなくて、小金井警察署は小金井市と国分寺市の2つを管轄しております。同じように、田無警察署は西東京市と東久留米市、杉並区、練馬区、立川署は立川市と国立市、一番右は東京都の数字、全都になります。

14年から17年まで4カ年記載しておりますけれども、例えば14年の武蔵野市は総件数が5171件でございました。これは刑法犯の分類としては一番下のところに「◇」で書いておりますが、分類は凶悪犯、粗暴犯、窃盗犯、知能犯、風俗犯、その他という形になっておりまして、総件数が認知件数で5171件です。その下の凶悪犯は、本当に怖い犯罪の件数。その下は窃盗犯の件数です。その下は窃盗犯のうちの乗物盗の件数で、その下の「人口」はそのときの人口です。この人口で割った1000人当たりの件数という形で書いてございます。

ここでちょっと見ていただきたいのですけれども、実は1000人当たりの14年の武蔵野市の総件数を見ると39ということで、その右の方をずっといくと東京都の平均が25、立川で26ですから、このときは高いのです。次に15、16、17年と見ていただきますと、総件数は28ということで11減っております。ほかを見ていただきますと、多摩の他市はほとんど変化ありません。東京都の方は、警視庁がここで重点的に減らそうとやっていますので、25から21でマイナス4です。立川は26と変わらず、区部の杉並が22から17ですから5減ったということなんですが、武蔵野はマイナス11ということで、減少率は高いという形になっています。

ただ、17年度でも、ほかに比べれば確かに数値的には高いです。東京都の平均が21です。

この理由として分析した結果を一番下の「※」に書いたのですけれども、1つはやはり窃盗犯が多い。窃盗犯が多いのはなぜかということ、繁華街の吉祥寺を抱えているということで、万引き、自転車盗が多いということになります。

これは、ほかの多摩の市と比べると、立川市・国立市は、どちらかという武蔵野市に割と近い数字を持っています。26の中で窃盗犯が19で乗物盗が9。これは国立市も入っているのですけれども、立川という繁華街を同じような形で持っているからかと思っております。

例えば17年の総件数は28ですけれども、窃盗犯が21を占めます。この窃盗犯で例えば隣の三鷹市や小金井市の総件数16、18を超えてしまうということですので、やはりここが高いといわざるを得ないのがわかります。

右へずっと比べていきますと、三鷹市とは21と11ですから10ポイント多い。他市に比べて9から10ポイントと窃盗犯の数字が高いです。「うち乗物盗」も武蔵野は10ですので、窃盗犯のうち半分は乗物盗になります。乗物盗でも自転車盗が多いのですが、これは右の方へいきますと、三鷹市や杉並区は5です。小金井市・国分寺市は7です。3ないし5ポイントは多いという形になっておまして、唯一似ているような構成を持っているのが、先ほど申しました立川市・国立市となっています。

データから見ますとこういった形になってくるのですけれども、凶悪犯の数字というのは武蔵野は変わらないか、低いのです。これは人口割になると、余りにも数字が小さくて、みんな0.1になってくるのですけれども、立川市・国立市ですと15年に0.2というものがあるので、12件、18件、7件と生の数字を見ていただければ、全体的に多摩の市は、三鷹市もそうなのですが、こういった凶悪な件数はそう多くはない。凶悪犯は多くないというのは体感できるかと思うのですけれども、件数はこういった凶悪・粗暴犯ではなくて、窃盗犯が多い。

28から21を引いた残り7が窃盗犯以外の数字になりますから、それは他区市とさほど変わってまいりません。三鷹市が5とか小金井市・国分寺市が6です。立川市・国立市が7、東京都の平均は6です。平均ですから、もっと悪いところもある。新宿、池袋、渋谷、六本木の4地区は、警視庁でも重点的な対策を実施しております。

長くなりましたけれども、説明は以上です。

○小竹アドバイザー ただいまの資料でご質問等はございますか。――よろしゅうございますでしょうか。

それでは、前回ご要望がありましたことについてのご回答をお願いしたいと思います。

○渡辺幹事長 それでは、前回のご要望でございます。

まず1点目、郵送でお配りしてございますけれども、会議録に出席委員のお名前を記載

する件につきましては、直近の第5回の会議録から冒頭に記載をしております。1回から4回までのものについては該当ページを作成して、郵送をいたしたところであります。

2点目でございます。国際交流報告書の提供でございますけれども、ご要望の委員の方にはお渡しがかないましたのですけれども、部数が残念ながら余りないものですから、他の委員の皆様につきましては、大変申しわけございませんけれども、必要な場合には閲覧という形で担当課にお申し出いただいて、ご覧いただければと思います。

3点目です。ヒューマン・ネットワークセンターとの意見交換でございます。また後で栗原委員さんから詳しい説明があるかと思っておりますけれども、18日、金曜日の夜にあるということで伺っております。当日は市の担当課長も出席する予定でございます。

4点目です。郵送でお手元に届いたかと思っておりますけれども、「市民会議委員交流会のお知らせ」という文書をお送りしております。これにつきましては、本日の会議を終了した後、少しお残りいただきまして企画調整課から説明をさせていただきたいと考えております。

最後、要望事項の報告ではございませんけれども、1点事務局から皆様にご報告することがございます。

実は、赤松委員でございますけれども、本日欠席しております。実は12月13日付で赤松委員から退会届が提出されました。理由といたしましては、時間的に参加が不可能になったということで、私ども事務局としても、時間的に難しいのであれば、欠席がちでも出られるときだけでも結構ですので、ご参加をいただければそれで結構ですということでお引きとめはしたのですけれども、ご本人の意思がかたかったものですから、結果的には退会の届けを受理して承認をいたしました。ご報告をさせていただきました。

事務局からは以上です。

○小竹アドバイザー ただいまのご説明について何かご質問、ご意見のございます方、よろしくお願ひします。――よろしゅうございますでしょうか。特にご意見がないようでしたら、次に進ませていただきます。

それでは、傍聴の方に入室いただくこととなりますが、本日……。

○久木野委員 傍聴の方が入る前に。

前回の市民生活分野の傍聴者の名前が違っているんです。「大谷」ではなくて「大矢」です。

○小竹アドバイザー 傍聴者の意見の一番最初の「大谷」が「大矢」になっているという

ことでご訂正いただきたいと思います。

そのほかにございませんでしょうか。それでは傍聴の方、本日4名の方がお見えになっていらっしゃると思います。それから、恐らく途中入室、途中退室になられると思うのですが、きょうは市長さんも傍聴にいらっしゃるかと伺っております。

〔傍聴人、入室〕

○小竹アドバイザー それでは、傍聴の方、身支度を整えられてご着席されると思いますので、次に進ませていただきたいと思います。

2. 議 事

○小竹アドバイザー では、ただいまから議事に入っていきたいと思いますが、まず一番最初に前回議論もされまして、年末年始に取りまとめをしていただきましたプレイスの件につきまして、最終確認をしたいと思います。

本日配られた二重線の入っているプリントをもとに話を進めていただくことになっておりますので、進行役を栗原委員に交代させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○栗原委員 では、最初に少しお時間をいただいて、昨年から検討してまいりました武蔵野プレイスの建設計画について、緑・環境・市民生活部会からの提言についてご説明をさせていただいて、若干議論があるかと思っておりますので、そこをしていきたいと思っております。

皆さんからいろんなご意見をいただきました。私がまとめたものに対して、年内に何人かの委員の方からいただいたご意見を読ませていただきまして、きょうお配りした紙にある二重線のところは私の方でつけ加えてみました。その手前のところについては、さきにお送りしたままで、とりあえず変更せずに最終提案ということにさせていただきたいと思っておりますので、それを受けてご意見を伺いたいと思っております。

ご意見いろいろいただいたのですが、それについて若干お返事しておきたいと思っております。

機能の重複を避けるということの中に西部図書館をどうするのかということに含まれているかということですが、それは本文の中でも、西部図書館も含めて検討してもらいたいということを書いております。

あとは、市民のパートナーシップ、市民参加というのは、建物の運営についても、そのように考えられているかということですが、これは専門家会議の中でもそのように考えられているというまとめがありますので、あえてそのことは記載いたしませんでした。

それから、今回修正をかけなかった最初のページの記の1に「武蔵野市勢」という言葉があつて、「市勢」という表現を使うわけですけれども、それは表現としてかたいのではないかというご意見がありました。これは市長と専門家の方がご覧になるので、若干表現がかたくてもよろしいのではないかと思つて、そのまま残しました。

それから、記の2の方について。これは2に3つ入れるとごちゃごちゃするのではないかというご意見もありましたが、私たちの緑・環境・市民生活分野にかかわる部分を2にまとめましたので、これは我々にかかわる部分をまとめたということで、ほかの1、3に比べると若干ボリュームが多いようすけれども、これでいいのではないかというふうには私は考へて、これを分けることはいたしませんでした。

それから、きょうお配りした方にいろいろ表現が加えてある部分がありますが、もうちょっと具体的でわかりやすい表現をつけ加えていった方が、専門家委員の方たちにはわかりやすいのではないかということで、専門家会議の傍聴意見の中からいろいろ表現を拾つてくださった方がありましたが、その点に関しては、専門家の方たちは、つまり傍聴意見としてももうご覧になっているので、ここで改めてその表現を取り上げて、その表現を使ったということで、専門家の方たちに非常に新しい、新鮮な感じを受けていただけるかということには少々疑問がありました。ただ、若干使わせていただいた部分はあります。

駐輪場の件は、「武蔵境の南北一体化事業の計画の中で、どこに作るのがよいか検討すべきです」とだけ書きましたが、環境に負荷をかけるということとの関係でも表現を入れてほしいということがありまして、2のところ「環境に負荷をかけない移動手段として、自転車の活用が今後ますます求められますが」という文章を入れさせていただきました。

それから、災害時の問題について、やっぱりきちんと書いてもらえないかというご意見がありましたので、それについては「3 市民生活について」のところ「今後は防災の視点が不可欠になります」ということで3行加えさせていただきました。

建物が計画される予定地が駅前の一等地なので、もっと有効活用して市の財政に貢献するような形を考へてはどうかというご意見がありました。これはちょっとこの部会で、これまで議論されてきた内容とずれるので、それを盛り込むことはちょっと難しいと今回私は考へました。なので、今回その点については私の文章の中には入っておりません。その点は、できれば今後のプレイスの見直しの流れができれば、その流れの中で提案していただいて、検討の課題にのせていくという形をとっていただければというふうには思っております。

それから、太陽光発電とか燃料電池とか、環境に配慮した組み立てということに関しては若干文章を加えさせていただきました。

また、ユニバーサルデザインとかバリアフリーという表現を入れてほしいという方がいらっしゃいましたが、これもその専門家の方たちの答申の中で、こちらはきちんと書かれておりますので、問題はないかと思って、外しました。

個別具体的なところに関してはそのようなことなんですけど、1つ議論になるかと思うのは、きょうお配りした1枚目の方に「有志一同」という表現を入れさせていただいたことかと思えます。何人の方から、ここで話し合っただけで決めるのであるから、「有志」という表現でなくてもいいのではないかというご意見がありました。

これに関しては、年末にお届けしたときにも、皆川さんの方から、この内容とやり方に関して、専門家会議にプレッシャーをかける、圧力をかけるという表現で発言された方もありましたし、そういう形の働きかけというものには、やはり自分としては余り賛成できないので、私はその中からは外れたいし、そういう形なので「有志」という形でお願いしたいというお話があったので、「有志一同」という表現にさせていただきましたが、そうでなくていいのではないかというご意見が、具体的には3人ぐらいの方からありました。そこについては、若干意見の分かれるところかと思えますので、ご意見をいただきたいと思えます。

とりあえず私の方からは以上です。

○久木野委員 私は「有志」については意見をいわなかったんですけど、きょう改めて今、栗原さんの提案で、皆川さんが「プレッシャーをかける」という表現をなさいましたけれど、私はプレッシャーをかけてはいないというふうに思います。

プレッシャーというのは、例えば権威のある、力のある強い者、権力者が市民に対してこうしようというときには、それはプレッシャーになるかもしれないんですけど、私たち市民が提案する場合には、決してプレッシャー、圧力ではないと思えます。ですので、できましたら「有志」を外していただけたらと思えます。

○栗原委員 とりあえず「有志」であるかどうかということについてでよろしいですか。

○新垣委員 この分野で、検討課題として与えられた新公共施設の建設という題目について、緑・環境・市民生活の中でいろんな議論をして、この間まとめていただいて、かなり補強追加していただいております。

そういう意味からいけば、プレッシャーとか何かとかいうことではなくて、この分野と

して皆さんのご意見のおおよそのところがこういうところにあるということでまとまったわけですから、それは素直に専門家会議にご提出して、参考にさせていただくということですから、余りそこはこだわることなく、ストーンと落とした方がいいと思っています。

○栗原委員 とりあえず「有志」ということに関して、よろしければ。

○白石委員 皆川さんは、今回のこの文章をお読みになって、皆川さん自身が抜きたいとか、私はこれには賛成できないということのお話なんですか。そういうことですか。

○皆川委員 実は、前々回のときでしたか、お話ししましたように、プレイスの問題は専門家会議でやっていくと。過去の経過も踏まえながらそこでやっておるわけだから、そこに預けるということで、それでどうしてもということであれば、その会議の中で行政の担当の方からこういう話があるというようなことで、これはおさめるということではないんじゃないかというふうに、前々回の会合では話をしました。

それで前回、市民生活1の分野をしたわけですが、そういう中でも、コンパクトなものにしていくという皆さんの考え方もあるから、いうならば非常に常識的な形で、そういうことを要望のような形で出すということはあってもいいかなと思って、そういう措置もとったわけですが、そんなことでは生ぬるいからプレッシャーをかけなくちゃ、これはちょっと幾ら何でも行き過ぎて、この会議は一体何なんだということを私は非常に感じまして、実はもうこの会議の中でいろいろ議論しても仕方ないんじゃないかと。はっきりいって市長も傍聴に来られるということのようですが、市民会議というものの委員をやっていいのかということすら私は感じております。

したがって、どうかこの「有志一同」をとるということは、私も入ることになりますから、私はもう絶対反対していますので、この「有志一同」は入れていただきたい、こう思います。

私もこの会議の構成員の1人ですから、どうかひとつ、わからない方は幾ら話しても議論が平行線になると思いますから、これ以上申し上げませんが、私はそういうふうに思っていますので、我々がなすべきことは調整計画について提言を出していくということであるわけですから、そこに徹するべきだということを再度申し上げて、この件についてはもう二度と私は申し上げませんので、よろしくお願いします。

それから、暮れでしたが、ある方から、私、親しい方です、どうなんだということもありまして、いや実はと先ほどのことを話しまして、それはどうもあの会議自体が何の会議

になっているのだろうという疑問を私は持っているということも話して、その方はご了解はしなかったと思いますが、ということで、これは終始一貫した考え方ですので、どうかひとつ、これはもう、この線でいってください。よろしく。

○栗原委員 という話し合いの状況なんですけれども、皆川さんの方からもご自分の考えを今、伺えたと思うのですが。

○石川委員 皆川さんとはいろいろ前からおつき合いがあるので、再考してもらえないかということも話したけれども、きょうはオフィシャルにそういう発言なんで、これ以上いってもしようがないなど。

そこで新たに提案しますけれども、「有志一同」ということになると、何人それに賛成したかわかりませんから、要するに、この意見に賛成の人は署名といいますか、氏名をつけて出す、そういう格好にしたらどうかと思いますけど。その方が、20人いても、休んでいる人もいるでしょうけども、そのうち出席者中何人の人がこういう考え方に賛成かということで名前を出す、そういうことなら皆川さん、いいでしょう。

「有志一同」ということになると、反対している人が相当いるのかなという感じもあるし、皆さんそれぞれ本当にいいのかどうかわかりませんが……。

○皆川委員 「有志一同」と括弧して、有志の名前を……。

○石川委員 名前を書くとか、そういうやり方もあるんじゃないかと思うんですが。これは提案です。

○白石委員 私もそう思っておりました。5人も有志だし、3人も有志だし、15人も有志だし、そういうことでいけば、やはり記名で提出していただいた方がいいんじゃないかと考えております。

○栗原委員 今、お2人の方からご提案いただきましたけれども、いかがでしょうか。

「有志一同」でこれに賛成の方は記名でということで進めるというのでは。

○久木野委員 基本的にはそれで結構だと思うんですけど、「有志」という言葉以外に何かもっと適切な、皆様のアイデアはないでしょうか。「有志」というと、本当に反対者が随分いるような感じがするんです。（「だから名前を書く。『有志』と書く必要はないわけだ。名前だけずっと書けばいい」「賛成と反対と両方書いたらいい」「反対の人は、1人しかいなかったら『反対1人』とだけ書けばいい」「反対の人はあえて名前を書かなくてもいいんじゃないの」と呼ぶ者あり）

○小竹アドバイザー あるいは、緑・環境・市民生活分野市民会議委員、括弧して名前を

入れる。

名前を書くというのは、私も「有志」のことが問題になったときに考えたんですが、そうすると言葉の意味でニュアンス的に「有志」という言葉を使いたくない方のご意見も通られますし、このことで「有志」を使ってほしくないという方の意見もきちんと通るかと思うんですけれども。

○河田委員 その場合、ここにきょう出席の人だけでなく、たまたま遅刻とか欠席の人もいらっしゃるから、そういう方のお名前もいただけるんだったら全部書き加えていただければいいんじゃないかと思います。

○小竹アドバイザー それに関しては、即このプリントを仕上げるということはできませんが、なるべく早く出した方がいいわけですね。ご欠席の方に確認をとって名前を入れるか入れないかをきちんとご本人に確認していただくというのをどなたにやっていただきましょうか。

○栗原委員 私、欠席の方のご連絡先も何も存じ上げませんが。

○小竹アドバイザー それは西園寺さんの方からお伺いになって。それでよろしゅうございますか。

○栗原委員 それでは、最後に小竹さんの方からご提案ありました「緑・環境・市民生活分野市民会議委員」で名前を連ねて、何名中何名という形で出すという形の方がよろしいでしょうか。

○小竹アドバイザー 何名中何名を入れるか入れないかは議論していないので、名前を入れるというところまでは……。

○栗原委員 数が少ないような印象とか反対している人がたくさんいるような印象というお話がありましたので、それは人数を入れておいた方がいいのかなと、私が勝手に思いました。失礼いたしました。名前だけでも別に構いませんが。

○久木野委員 最後にもう1つ。

皆川さんにちょっとお話ししたいんですが、私、農水省のこの跡地についてはずっと傍聴もしていますし、委員会も傍聴していますし、専門家会議も傍聴してきました。その内容もかなり詳しく知っていますけれど、今回の栗原さんのまとめを読ませていただきまして、決して圧力をかけるというような内容にはなっていないし、そういう状況にもありませんので、そのあたりは圧力とお思いにならないでいただきたい。あくまでも提案、提言、市民の意見というふうにおとりいただけたらありがたいと思います。

○皆川委員 圧力をかけるということは久木野さんが前回いわれたのであって、それはまあ……。

○久木野委員 動かすといったのよ。専門家会議を動かすぐらいの……。

○皆川委員 いや、それはそれで結構ですが、実はこれは、私は栗原さんとも3人一緒にやった仲ですが、これについては当然わかっていることです。今さらこういうことをと。それをなぜここまでしなくちゃいかぬのか。

もう何年間か、この前担当の方からああいう説明がございました。それを経て今は専門家会議をやっておるわけですから、この経緯というものを十分認識しながら我々は対応していけないといかぬ。

ただ、皆さんの考え方はどうしてもそれで突き通したいからということであるだろうと思います。だけど、地元には地元のいろんな考え方があるわけです。だから、その辺も考えた場合、これはひとつ文章を出すなということを私は言っているわけではないですから、どうか。

私は「有志一同」をどうしても入れてほしいんです、それで括弧して名前をつけるなりということ。しかしそれも一歩譲りますから、名前は入れてください。私はその名前には入りませんので。それが1人であろうが、2人であろうが、いいじゃないですか。

どうか良識ある判断というものは、過去ここまで経過が流れてきているわけですから、その経過を経てなされているということを十分判断してください。

以上です。

○小竹アドバイザー アドバイザーとして。

両方の意見はごもつともです。1つのことは、サイドが違えば見方とか意見は違いますので、先ほど栗原委員がまとめてくださったように、この文章で「委員」として名前を出すことが全体の共有した部分を一番具現化した形になるのではないかと思います、それでよろしゅうございますでしょうか。

人数を入れるか入れないかについては、どうされますか。

○栗原委員 話はありませんでしたので、別に。

○小竹アドバイザー じゃあ、お名前を入れるということで、その確認を。

○久木野委員 小竹先生のご意見が、私はいい。賛成。何とか委員として名前を書く。

○小竹アドバイザー それで決定ということでもよろしゅうございますね。

その確認を西園寺委員と栗原委員でちょっとやっていただいて、そうするとこの提出は、

もう自動的に次回集まる以前にされるということによろしいのでしょうか。

○石川委員 「有志一同」ということについて以外に、この内容についても発言していいんでしょう。

○小竹アドバイザー 議論については栗原さんにお戻しします。進行をお願いします。

○栗原委員 今の形の方については、市民会議委員ということで名前を連ねるということで、今日いらしている方は今日ご確認いただければよろしいということですね。

では、そのことについては、これでよろしいですね。

あと、石川さんの方からもありました中身のことについて、ご意見がありましたら、伺います。

○石川委員 「市民生活」のアンダーラインを引いた部分。こういう防災の視点云々というのはわからないわけではないですが、現実的に余りいろいろなことを欲張って書くのはどうかと。実際に、災害が起きたときに、例えばこういう機能を持たせるとなったら、かなり倉庫的なスペースも要るでしょうし、余りこういうものを入れるのはどうかという事です。

○西園寺委員 この防災の観点をに入れてほしいと言ったのは私なので、私からご説明しますが、この文章にここまで細かく書く必要は、確かにないと思います。

ただ、もし何か大震災があったときに中央線の線路沿いに帰宅難民の人がずっと歩いてくるようなイメージを思い浮かべると、あの場所というのは最低限でも給水所にはならなきゃいけないなと思っているので、あそこに防災センターみたいな機能は必要ないけれども、そういった配慮は絶対必要ではないかなと思っているので。

でも、文章表現としてここまで細かく書く必要はないです。ここにもっと簡単にでもいいです。

○栗原委員 表現の問題でしたら、3行になっていますけれども、もう少しコンパクトにまとめることは可能です。

ただ、西園寺さんもいわれたように、これから市が何か物をつくるとか計画をするときには、必ず防災の視点を入れて考えていただきたいというところは強調しておいてもいいのではないかとこのふうには思っております。そういうことでよろしければ、文章を若干工夫いたします。

○島田委員 私は、この紙だけで例えば提言書を提出するのであれば、むしろこうやって書いてある方が、全然知らない人が簡単に書いても意味が理解できないと思うんです。

ですから、こうやって書いてくれた方が、私が例えば初めて見た場合に、すごく理解できるので、むしろ書いてもらった方が、初めて見た人にはよく理解ができていいと思いますから、抜かさない方がいいような気がします。この紙で理解するというのは、大変なことです。

○栗原委員 ご支持ありがとうございます。相手は専門家の方たちですから、基本的なことはわかっていらっしゃるということで。

ただ、プレイスの現在の計画の中には防災の視点が入っていないと言っていると思います。全くないんです。ですから、専門家の方たちはおわかりだろうとは思いますが、さまざまな状況の中でそういうものをアイデアとしてまとめる中に入れ込むことができないということだとは思いますが、おわかりはおわかりだと思うのです、そのくらいのことは。（「私だけかな」と呼ぶ者あり）僕も西園寺さんからもらうと、そうかそうか、なるほどと思うくらいですから、細かく書いてあった方が、見た人にはわかりやすいと思います。

○小竹アドバイザー 全体のバランスで見て3行ぐらいあって説得力を持たせるか、多少短くして専門家の方はご理解いただけるか。そこは集まらないでこの文章は表に出ますので、ここできっちり決めておかないといけないと思います。

○久木野委員 私、両方の意見がよくわかっちゃって、どうしようかしらと、かなりあれなんですけれども、石川さんのおっしゃることは多分実際面で果たしてそういう機能を持たせても、現に防災関係で苦労なさっているから、そういうことを考えておっしゃられた意見だと思うんです。

運用面で、実際人手を手分けするとか具体的にだれがどうするというものがないと、施設を幾らつくっても、本当に災害が発生したときにどうしようもないですから、それでちょっと老婆心というか、そういう石川さんのご意見ではないかと思うのです。だから、どう入れていいのか、入れたら悪いのか、私もちょっとわからなくなりました。

○上月委員 今の意見とちょっと違うのですが、私はいいことが書いてあると思うのです。「また、太陽光発電や燃料電池等の活用も検討して下さい」と。

停電というのはこういう大災害には絶対起きるわけですから、自家発電装置をがっちり持つということは非常にメリットがあるのではないかと思います。ですから、もし専門委員会でこういうものをまだ考えていないのであれば、これが非常電源として活用できるような形になるのであれば、ここに書いてあるメリットが非常にあるのかなという感じを受

けました。

以上です。

○栗原委員 先ほどからの防災に関する議論ですけれども、両方の意見にももちろん理があるあるわけですから、どっちが丸で、どっちがバツということではないはずなんです。ただ、小竹さんがいわれたように、どちらかに決めておかなければいかぬということなので、これは長く議論していても、きょうの課題に間に合いませんので、単純に、少し短目がいいか、いやこれぐらいあった方がいいかということで、ちょっと手を挙げていただいて、それで決めさせていただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員 では、伺います。この3、「市民生活について」の防災についてのアンダーラインのかかった表現をもう少しコンパクトにした方がいいとお考えの方。

〔賛成者挙手〕

○栗原委員 このぐらいあっていいんじゃないかと思われる方。

〔賛成者挙手〕

○栗原委員 僅差でございますけれども、コンパクトにした方がいいという意見の方の方が若干多うございましたので、少しコンパクトにする形で文章を。この内容の趣旨は変えませんが、コンパクトにする部分だけ、私たちの方でさせていただくというふうにしてよろしいでしょうか。

ほかに内容のところでありましたら。きょうの主なテーマもございますので、大きな問題がなければ、これでオーケーということにさせていただければありがたいと思います。よろしいですか。

どうもご協力ありがとうございました。

○小竹アドバイザー ご苦労さまでした。ありがとうございます。

そうしましたら、文章の手直しされたものを事務局にお渡しいただいてということになるのですね。

○栗原委員 そうですね。事務局にお渡しして、事務局から専門家会議の委員の方に届けていただくような形でよろしいでしょうか。

○小竹アドバイザー それと最終的にこの文章にしたというのを。

○栗原委員 もちろん委員には配るので。

○谷委員 ちょっと意見。先ほど委員の名前を出せる人を確認しないとだめなんじゃない

ですか。

○栗原委員 紙を回して、いいよという人は名前を書いていただくような形でいかがでしょう。

○谷委員 そうしますか。

○小竹アドバイザー これはあくまでも一部の方ですので、会議が解散した後にやっていただくとありがたいのですけれども。「有志」という言葉を使っていいかどうか……。

○谷委員 委員としてやるということを確認したのですから、後も何も、ここでやらなければ確認できないんじゃないですか。でき上がってみなければわからないということになる。だれも見られないんです。だから、ここで確認した方がいいと思うんです。後でやるよりは。

○栗原委員 ごめんなさい、何を確認。

○谷委員 名前を出す委員です。

○小竹アドバイザー きょうご出席の方で……。

○栗原委員 紙を回していただいて、この文章でいいですよという方は。

○谷委員 手を挙げちゃえばいいじゃないですか。

○栗原委員 そうですか。じゃあ、そうしますか。

では、新公共施設武蔵野プレイス（仮称）の建設計画についてということと、その記の2についての詳しい内容説明、これでもよろしいと思われる方は、済みません、手を挙げていただけますか。

〔賛成者挙手〕

○栗原委員 皆川さん以外ということで。ありがとうございます。

○小竹アドバイザー それと、本日ご欠席の方については、皆さんに知らせめをしないまに出すということでよろしゅうございますか。

○栗原委員 いえ、さっきの話で確認をというお話でしたから、文章を若干直した上で、西園寺さんの方でおわかりになるなら西園寺さんの方から出していただきますし、おわかりにならない方があるようでしたら、事務局の方から出していただいて、いついつまでにお返事くださいという形に……。

○渡辺幹事長 事務局から出すことは控えさせていただきたいと思います。

○小竹アドバイザー 事務局に渡すのは最終案をという形の方がよろしゅうございますので、まだ確認の段階でしたら、それこそこのグループの中でやっていただいた方がよろし

いかと思うのです。

なおかつもう1つ問題になるのは、なるべく早く出した方がいいというのが前提でありますので、そこをどうするかを決められた方がよろしいかと思うのですが。

塩入委員には、今晚、あすじゅうぐらいにはわかりますね。それを恐れ入りますが西園寺さん経由でお知らせいただけますか。それでよろしゅうございますでしょうか。

今週中ぐらいには形になると考えてよろしいですね。

○栗原委員 はい。

西園寺さん、きょう欠席の方は皆さん、おわかりになりますか。

○西園寺委員 藤本さんに関してはわからないのです。ちょっと厳しい。

○栗原委員 具体的には、藤本さんに関しては、ご連絡先が、それこそ私たちにはわからないのです。最初の会議だけ参加されていて、ご本人から連絡先を伺っていない。

○小竹アドバイザー あと、議論にもちょっとご参加されていないので、「有志」という言葉をこの場で使っているのかどうかわかりませんが、「有志」という形の名前を入れるという形で出すのであれば、その確認はしなくてもいいかなと思います。それでよろしいかどうかは、皆さんでご確認いただきたいのですが。塩入さんだけです。

○栗原委員 わかりました。

○小竹アドバイザー それでよろしゅうございますか。じゃあ栗原委員に、また少し作業していただくことになりますけれども、これでプレイスの件についての書類を出すことに関しては終わりにさせていただきたいと思います。

それでは、本日の中心議題になります市民生活2に関する議論に移りたいと思いますので、進行役をどうぞよろしく願いいたします。

(1) テーマ別議論『市民生活2』分野

○新垣委員 明けましておめでとうございます。

市民生活2の与えられた分について、暮れに皆様に宿題をお出しいたしまして、14名の委員の方からご意見をちょうだいいたしまして、整理したものを4日の日付でお手元に送付させていただきました。

ただ、一部の方から、「えっ、これを全部読むの、要約しないの」というような耳打ちが入りまして、やむを得ず本日、新たに、「意見・ガイダンス」という5枚物を整理しました。番号順に全部整理して、意見を要約してあります。きょうの進行としては、できれ

ばこのガイドランスに沿って意見を、項目別に議論していただければ、こういうふう
に考えております。

それと、石川委員の方からご提示いただいたまとめのペーパーですが、項目別には非常
に簡単に整理できていいんですが、大どころの部分はどこでどうやってはめ込むかとい
うのが非常に苦勞して難しく、やっぱり文章化されてきた方が半分ほどいらっしやいま
したので、それについては他の緑・環境・市民生活1のそれぞれの座長の皆さんと一
遍、これからどうやってまとめていくかもご相談しながら、その辺の扱い方については
整理をしていきたい、こういうふうに感じておるところです。

一番最初は、農業関係であります。「農地の保全」という項目であります。

第四期長計では、農地の保全に努めるということが記されておりますが、農業振興基本
計画を見ますと、10年後の農地の減少率7%ということで、保全をして、現状を維持し
ていくための施策その他について言及がなかなか難しく、やはり減っていくというこ
とを想定しているということですが、長計でも言うておりますように、農地の保全とい
うのは災害時の問題とか都市環境保全という面からも大変重要な問題の施策であるとい
うことから、重要な柱として現状維持するか、もしくは、むしろいかにこの農地を増加
させるかというような施策にポイントを置いて進めていく必要があるのではないかと
いうのがおおむね皆さんのご意見です。

さらに、農業振興基本計画の巻末の方に市民ヒアリングをされておって、多くの意見
が出ておりますが、現行制度上難しい、もしくは財政上困難であるということで、ほと
んど切り捨てられております。これはやっぱりそういうスタンスではなくて、それに
チャレンジをするということで、要再検討ということで、現行制度の中でどう工夫す
るか、現行制度の壁をある程度どう広げていくか、財政的にも他の重要優先度から
も、農地の保全問題をさらに優先度を高くして、ある程度クリアするという覚悟が
必要ではないかというふうに、「農地の保全」の部分では整理をしていきたいなとい
うふうに皆さんの意見を整理しております。

それから、「都市農業の振興」という項目であります。これについては後継者の育成、
農産物の販路、商店との連携、環境にやさしい農業、農業者・消費者・JA・商連・行政
の協議体をつくる必要がある、などなどいろいろ具体的な案が出されております。

「農業振興基本計画」の見直しにつきましては、市民も参加した農業振興基本計画の早
急な見直しで武蔵野市としての特徴ある農業をもう一回検討すべきであるということであ

ります。

「市内産農産物の地産地消の促進」ということでいえば、学校給食の食材の促進、商店での農産物販売等具体的な意見が幾つか出されております。

次に、「環境に配慮した安全・安心な農業の支援」ということでありますが、有機農業への具体的支援策を明記すべきではないか、生ごみ堆肥のリサイクルルートの確立をした方がいいのではないか、生産履歴表示、農業ポジティブリストの遵守、農薬散布の注意表示、減農薬・有機農業への取り組み強化等々ご意見が出されております。

最後に、「体験型市民農園の支援」ということで、市民農園のあり方については、遊休地を暫定的に有機農園として活用できないか、生ごみリサイクルと結合した市民農園を拡大できないか、農業者が市民に援農を呼びかけて、体験型農業を実施し、その体験の中から安心・安全の農業というものをどう見ていくのかということの具体的な仕組みをつくったらどうか等々の意見が出されております。

農業については、具体的に細かいのはそれぞれのご意見の方を見ていただければいいと思いますが、主なご意見は、そういう形で集約できるのかと考えておりますが、それについて補足もしくはその他のご意見があれば、お伺いさせていただきたい、こう思います。
○栗原委員 農業のところで僕が書かせていただいたことが1つあるのです。それは、交流市町村との協働の推進ということなんです。

これは現在の項目にありませんので、こういうふうに出てこないんだと思うのですけれども、1つは武蔵野市内の農業を今のさまざまな提案にあったような形で、農業そのものを豊かにしていくこととか、農業によって生み出されたものを市内で循環させていくというんですか、学校現場にももちろん入れていくのがいいでしょうし、販売されるのもいいでしょうし、いろいろあると思うんですが、結果的に市内で武蔵野市の食生活を賄うことはできません。長期計画の頭にありますように、都市は単立できないという認識でもって、「都市の窓を開く」というふうに第四期の長期計画は組み立てられています。

となると、どうしても武蔵野市以外のところとどのように手をつないで武蔵野市の市民が食べるものを豊かに準備していくのかということを考えざるを得ないのではないかとこのように僕は思っています。

なので、武蔵野市が今、交流している地方がありますね。農山漁村、漁村があるかどうか分かりませんが、そういうところの農業を武蔵野市が支援するということも含めて、あるいはそこで農業体験をさせていただく農業研修生みたいな形のことも含めて、あ

るいはそちらの方でつくられた安全・安心な農作物をたくさん武蔵野市に入れていくということも含めて、そういう交流地方都市、地方の村々とのかかわり合いをこれからつくっていかねばならない、強くしていかねばならないのではないかと思って、そこは提案させていただきました。ぜひ入れてください。

○新垣委員 ほかにいかがですか。

○西園寺委員 このグループの中には、農業の専門家と呼べるような人がいないので、ちょっとこの点、弱いかなと思うのですが、今新垣さんがまとめてくださった項目は、既に武蔵野市では結構やっているというか、すべて切り捨てているわけでもないなどは思っているのです。いろんなことはやっつけているなどは思っているのですけれども、やはりそれをいろんなものと有機的に絡み合わせていくということが、まだ足りないんじゃないかなと感じます。

例えば、地元の野菜を学校給食にきちんと位置づけていくということだとか、生活経済課がやっている市民農園を、JAや農業者の方と一緒に土づくりからやっていくという取り組みであるとか、ここにも書いてありますが、地元でとれた野菜を地元の商店街で売るという取り組みであるとか、つまり農業の話以外のところとの横つながりを強めていくというか、ネットワークをつくっていく、そういうことがあれば、ここに既にやっていることがすごく生きてくるんじゃないかなというふうに思います。

だから、まるきり新しいことをする必要は、もしかしたら余りないのかもしれませんが、これがもっと市民の目に届くような横つながりをしていってほしいなと思っております。

以上です。

○新垣委員 実は統計資料その他を見させていただきますと、現在武蔵野は84戸の農家ということで、その84戸の農家がどういう現状にあって、その農家自身がどう考えて、その農家自身がこれからどうしていきたいか、それから農地の保全との関係でいくと、その方たちはどういう考えを持っているのか、行政に対してどういう希望があるのかということについては、戸数からいえば、割合実情をまとめるのにすごく困難な戸数ではないと思いますが、なかなかそこまで踏み込んだ資料が出ていないというのが現状だろうと思うんです。

ですから、その辺のことを含めて、栗原さんが言われたようなこと、西園寺さんが言われたようなこととどういうふうに絡めて構築していくかということが重要だろうと思うのです。ですから、ここに書いたことはやっていないのではなくて、やっていることをさら

にもうちょっと深めてほしいというというような要望も多々あると思うので、今までの行政のご努力については別に否定するものではないわけで、さらにそういうことで深めてほしいというふうに受けとめていきたいなと思っています。

ただ、農業振興基本計画についての見直しについては、1年の間にということになっておりますが、これを早急に進めていくということで、そのあたりを基本的にもう一回行政としても見直していく。私たち市民もそれについて参画して計画をきちんと整理していくということが、その部分では必要かというふうに考えられます。

それ以外にご意見があれば。

○今木委員 農業の関係で一番大事なのは農地を保全するとか後継者を育てていく、そういうことだと思うんですけども、やっぱり食糧の自給率を高めるとか安全な食べ物をつくるということを考えると、農家に任せるだけではなくて、少しでも多くの人自分たちの手で野菜をつくる、農業とまでいわなくても、楽しみでも何でもいいんですが、野菜づくりをする人をふやしていくことが、都市の中では大事なことというか、できることなんじゃないかと思うんです。そんな広い土地でやらなくても。大きなことにはならないんですけども、そういう運動を広げていきながら、コミュニティづくりをしていくことができればいいと私は思っているんです。

それで、今、市に、市の遊休地を市民で使える有機農園にしてほしいという要望を出しているんですけども、まだお返事はいただけないんですけども、そういう小さな運動を広げていくことも、1つ大事ではないかと思っています。形はいろいろだと思うんですけども、どんな形でもいいと思います。

○白石委員 私も実を申しますと、今までの自分の生活の中では有機をやっている人たちからの、遠いところからの野菜などを手に入れてきたんですが、このところ全くそうじゃなく、地元の野菜をいかに大事にしなきゃいけないか、農業を大事にしなきゃいけないかということを強く思い始めているところです。

今まで余りそういうことを考えてこなかったところで、最近ちょっと注意していますと、例えば国分寺とか練馬とか、既に市民と農業者という関係がかなりつくられていっている現状がありますので、そういうところから見ますと、武蔵野はまだまだ大変おくられているんじゃないかということと、やはり行政がもっと力を入れてもいいんじゃないか。その橋渡しがなかなかでき切れていないということがあったような気がするんです。それをつくっていくのがこれからではないんでしょうかというふうに思って、今回私も思いを込め

てここに書いたわけです。いろいろなことができるな、そんな夢が膨らんでくるんですけども、まず第一歩として早速に少しでも農業者とつながりたいなという思いが今、とてもあります。

もう1つは、西園寺さんがおっしゃいました栗原さんのご意見ですが、友好都市さんとの関係があるんですけど、現実にはどのような形で友好関係が結ばれているのか。私は青空市とか桜まつりを通しての様子しかわかりませんで、具体的にはどのような形でつながっておられるのか。そのような部分があるのかどうかということをお聞かせいただければと思います。

○新垣委員 これについては五十嵐さんの方から少し解説してください。

○五十嵐環境生活部交流事業担当部長 友好都市と、特に農業の関係で何か可能性がないかというお話だと思いますが、友好都市とのつき合い方は、細かくはとても時間がなくて説明いたしませんでしたけれども、3回ぐらい前ですか、簡単なペーパーでこんなところとおつき合いしている、というお話だけはさせていただいたと思います。それで方向性として、先ほど来、都市は単立できないとか、栗原さんからもいろいろご紹介いただきましたけれども、そういう姿勢でやっているというお話まではしました。

農業体験という意味では、家族で新潟の長岡、旧小国町で、田植えもやったり草取りをやったり収穫もやるというのをここ何年間か取り組んでおります。これは相手方もそれを受け容れる素地があるのでやっているわけなので、他にもいろんな可能性はあると思いますが、どんなことをやれるかというのは、なかなか一言では申し上げられないのですが、今のような農業体験を現に家族で行っている例もあるということです。年間平均してのべ30組から50組ぐらいでしょうか、そのくらいのご家庭が現地に行って体験しております。

○富川委員 同じような質問になると思うのですが、先ほどちょっと新垣委員の方から話がありましたけれども、84戸の農業の方が今どういうふうにやってほしいのか、あるいは武蔵野市の農業にどういう未来を描いておられるのか、そういう話を行政の方で何かお持ちでしたら聞かせていただきたいのですが。

○井田生活経済課長 そういう意味では、前回の農業振興基本計画を作成する段階で、その方たちに全部アンケートをとったページがありますので、この35ページ以降に30ほどの設問で、自由記入欄も入れて書いてありますので、そこにはさまざまなことありますが、その中でも環境保全型、環境負荷の少ない農業を進めていくというところでは、多く

の方々からそういうような形での農業を進めていきたいという声があります。

そのほか多いところでは、空き缶、ごみの投棄防止ですとか、これも農業者の方には一番つらいところだと思うのですが、あとは農協や市による共同直売所の増設ですとか有機・低農薬農業の推進。ここの中で利用されていたり、今回の皆さん方のご意見でまとめられたものと、ほぼ似た意識で皆さん取り組んでいらっしゃると思います。

あと1つ、交流の関係で、武蔵野市が交流している市町村、今も市や町の農産物という形の話が出ましたので、1つは春の桜まつりと秋の青空市という2大イベントがありまして、そののこのころに来ていただいて販売をいただいている。特に秋はちょうど農産物がいっぱいできる時期なので、さまざまな農産物をお持ちいただいて、市民の皆さんに販売をしております。そのときに、あわせて市内でも農産物品評会といって、市内農業者の農産物のできたものの品評会をして即売をしております。

それから、年間を通じてはアンテナショップの方で友好都市からの農産物を、地元産の野菜とともに販売をしております。

以上です。

○栗原委員 今ご説明いただいたのは、交流事業といってよろしいかと思うのですが、僕が提案したいことは、例えば農業者を育成するというときに、武蔵野市内で武蔵野市の農家の方たちのところで人が育つという可能性ももちろんあるかと思いますが、友好都市の農家の方のところに、さっき山村留学みたいなことを申しましたけれども、そちらで、つまり農業をやれる人間として育てていただくという形も考えられると思うんです。そういうところに市がサポートする。

もう1つは、以前の会議で少し発言させていただいたかと思うのですが、農村の課題はやはり過疎と、農村でももちろん農業の後継者がどんどん減っていくという課題を、そういう地域は抱えていると思うんです。そして武蔵野市が他の地域と交流するときに、お互いがないものを補い合って、お互いが豊かになっていくことを目指そうというときに、農村の抱える過疎とか後継者不足という課題に、武蔵野はどういう形でそこにかかわることができるのかというテーマがあると思っています。そういうところで、そういう場所に農業を学びに行って、もしかしたら学んだ方が、そこで農業を続けて、つくったものを武蔵野に届けてくださる、そういう流れが生まれるかもしれません。私が将来に向けて都市間交流の中で提案したいことは、そのようなことなんです。

以上です。

○石川委員 私はよくまとまっているなと感じています。

ただ、一番上のところで、「現状を維持するか、もしくは増加を図らねばならない」、この「増加」は、現実是非常に無理じゃないかなという気がします。

というのは、7%減少というのが、面積でいくと2.5ヘクタールぐらいなのです。2万5000平方メートルのものが減っていくということですから、これを維持するというのは大変じゃないかと思うんです。

極端なことを言いますと、私はたまたまこの緑の方も見ているわけですが、公園の計画を見ますと、実際は1人が11.9平米あればいいという目標を立てているんですが、現実に、95年、1人当たり4.2平米が4.5平米、0.3平米しかふえていないんです。そのためにかけた金がたしか166億ぐらい。武蔵野市の負担分だけかかっているのです。

これは面積にすると恐らく4ヘクタール弱ぐらいになるのかもしれませんが。たしか平米50万ぐらいかかっていると思います。そういう公園なんかをある目標に向かって買わなきゃならないというべらぼうな目標を立てて、実際に買うとなれば、財政的な制約があって、0.2平米ぐらいしかふえていないわけです。そういうことをやるよりも、要するに今ある緑、こういう農地というのは。こういう減っていくものをむしろ優先して減らさないようにしていく。これは農業だけの問題じゃなしに、もう少し全般的に見て、やっぱり武蔵野の緑を残す、それから防災上の問題を考えて、あいた土地はすぐ公園だと買っていくよりは、そういうことはもう最小限にして、むしろ農地を何とかして保全する。結局は、どうしてもだめな場合は市が買う。

一方市民は、今、市民農園がありますが、これが大体0.8ヘクタールか何かで530～540人の人がやっているわけです。しかも、応募者は2倍以上あるはずです。そういう市民として農業をやりたいというニーズもあるわけですから、もし農業者がどうしてもということになれば、そういう人たちにそういう部分を開放する、そして農地として確保する、そういう発想があってもいいんじゃないかということです。

ですから、とにかく現状より減らさない。市長さんにもお願いしたいんですが、そういうことをきちんと大方針としてまず持つ。財政的にクリアということも書いてありますけれども、これは本当にもう少し全般的な財政の中で、そういう緑を守るという中でこれを優先してほしいということをお願いしたい。

それから30420、学校給食の食材。これは我々が中間のヒアリングに行ったときも、こ

の問題はたしか西園寺委員が出して、どのぐらいの自給率があるんですかと聞いたんですが、そのときにはちょっとはっきり市の方も回答できなかったんですが、実際にまとまった計画を見ると、17%というので、それを30%にふやそうというのが基本計画に入っています。これは我々がそういう望んだことを市が入れてくれたのは非常にいいと思うのですが、果たしてその30%がいいのか、できればもうちょっとふやした方がいいんじゃないかなという気もあるので、この辺のところは、どうなんでしょうか、そういうことが具体的に出ていますので、30%以上にしてほしいとか、逆にそういうことをむしろ具体的に入れてもいいかなという気がします。

以上です。

○島田委員 私、1年間に3回か4回ぐらい川上村にへ行くんです。さっきの栗原さんの意見じゃないんですけど、川上村の村長さんとたまたま会う機会がありまして、武蔵野の話をしてもらったら、学生が結構アルバイトに来るらしいんです。それで、川上村でセンスがすごくよくなったと喜んでいまして、それがまず1つ。

あと、農地の保全で後継者がだんだんいなくなってくるというのは、うちの近所も確かに畑で、息子さんはサラリーマンになっているし、年とったおばあちやまが1人で一生懸命耕している場合があるんです。何か気の毒になって「お水いかがですか」と持っていきたくなっちゃうんですが、そういう場合というのは。

ちょっとお伺いしたいのですが、例えばアルバイトとか、垣根や何かも木が伸びちゃったりして、切りましようかとかご近所の方も言うてくださるんですが、そういう農地の保全というのがわからないんですが、人の手を、お金でアルバイトを雇う、そういうことは禁止というわけがないと農地法か何かであるんですか、そういうのがちょっとわからなくて。その方が、いけないような感じで言うていましてね。別にアルバイトじゃなくてもいいんですが、そういう決まりがあるかどうか。植木屋さんも頼めないんですよ。別にお金に困って頼めないんじゃないかって、自分でやらなくちゃいけないという農地法があるのかしらと思ひまして。

○井田生活経済課長 特になんかと思ひます。

小作みたいな形じゃなくて、例えば人手が欲しいとき、農繁期、農閑期の場合は別ですけども、農業が忙しくなる時期にアルバイトの人を雇ったりする、そういうことはありますから、問題ないと思ひます。

○島田委員 問題ないんですか。1人で一生懸命やっている。それは要するに、農地とい

うのは結構税金が安いんです。ですから、そういう自分で耕すということに意義があって、他人様にお金を出してそういうことをやらせちゃいけないという法律でもあるのかと思って。そういうことはないんですか。わかりました。

○久木野委員 きのう、おとといちょっと仕入れたニュースなので、皆さんもちろん、ご存じかもしれないのですが、福島県の喜多方市で小学校が農業科というのを取り入れたということなんです。

ここのところ、図工科もカットされようとしている。要するに、受験とか偏差値に直結しないものがどんどん減らされようとしている。そういうことというのは、決していじめとか今の世の中の社会の荒れとかいうことと、自然にかかわらないということは直結しないまでも非常に関係のある問題だと思うんです。

農業科を武蔵野市で取り入れること自体は、それはそれなりの、現実にご無理かと思うのですが、そういう体験農業的なもの、それから農業と交流、そういったものをより一層膨らませて、自然と触れ合うという観点から長計の方へしっかりと、もう一步踏み込んで、重要性を書いていただけたらありがたいと思います。

○瀬口委員 済みません、ちょっとサボっていて意見を送れなかったんですけども、1つ思い出しました。

地産地消のところに入るかと思うんですけども、アメリカでもヨーロッパでも、都市でもやっているのがファーマーズマーケットで、武蔵野市でも青空市とかのときには生産者の方が直接販売したりしていると思うんですけど、年に何回かのイベントじゃなくて、毎週日曜日はこの場所でやっているみたいな、もっと小さな規模ですけども、生産者の人から直接買うことができる。「今週はこれがおいしいよ」とか「この間のこれはおいしかったよ」、そういう会話を交わすというところから地産地消していこうという動きがあるというのが、私なんかにとってはすごくうらやましいな、東京でもやりたいということの前から考えていたのですけれども、武蔵野は幸いなことに市内に生産者がいるので、本当に武蔵野の中でできることだなと思っていますので、地産地消の1つのやり方の中にファーマーズマーケットという名前にするかどうかかわからないですけども、もうちょっと頻度を多く、小さなそういうものを入れていただければと思います。

○上月委員 私は不勉強でわからないことが多いのですけれども、84戸の農家がどの程度労働力が不足しているのか。もし不足しているとすれば、福祉の新聞によく出ていますね、ボランティア募集とか、毎月2回ぐらい必ず出ていますよ。農家も気安く、もし人が

足りないのであれば、「謝礼は本当にお昼ご飯を出すぐらいですけどお願いしますよ」、それぐらいの形のお手伝いで皆さんが応援していけば、農家もやりやすいのかな。

だから、あくまで人手をかりやすいルールというか方法、そういうものをある程度重ねていけば、頼む方も頼みやすいし、行く方も行きやすいのではないかと感じます。

以上です。

○白石委員 いろいろと皆さんのご意見を伺ってしまして、私も同じところで感じることがいっぱいあるのですけれど、これは何か靴の上から足をかいている、そんな気分でしょうがないんです。まことにもってあれなんです、これをだれが采配を振ってくれるんでしょうか。

やっぱりまずはそれをつないでくれる行政が本気でこの農業、農政を重点課題だと思ってくれて、とにかくやろうというふうに思っただけないと、なかなか皆さんの思い、農家の思いも、そして私たちの思いも、買いたいなと思っている人たちの思いも、これがなかなかうまく進んでいかないんじゃないかなという気がしてしょうがないんです。

私もここで書いているのですけれど、武蔵野の路線商店街の発展の活性化に向けても、八百屋さんなんかでは、ぜひ地産地消で、武蔵野でとれたお野菜を、そこへ行けば必ず売っている、そんなところと結びつけながら、みんながよくなる方向で何とかこれを考えていけないものでしょうかと、何となく歯がゆい思いでいるのですけれど、その辺はいかがでしょうか。

○新垣委員 その辺については谷さんも地産地消の「地消」ではなくて「地商」に変わらないと、なかなかインパクトが出てこない、そういう仕組みをどうやってつくるかということをご意見で出されております。

それから、上月さんも言われましたが、今この 84 戸の農家の動向はどうなっているのか、それから今いろいろ出されたご意見について、その農家の方たちが答えてくれるかどうかというのが一番問題であります。

専業農家が 17 戸、非常に少なくてあとは兼業農家になっている。それから、兼業農家のうちでも半分ほどが先ほど言われたように老人が寂しくやっている、そういう状況なども含めて後継者の問題、それから労働力の問題を含めて、それぞれがどうしたらそこら辺について農地の保全につながるような活動を展開できるのかということのある程度基本政策の中で一遍精査して決めていかないと、せっかくのいい意見も結びついていかないと感じがいたしております。

そういう意味では、皆さんの多くから出されておった農業振興基本計画の早期の見直しと具体的な実態的な農家のご意見もあわせて、消費者なり農家なり行政なりJAなりが、その辺について一体となってきちんと議論していく場が保障されないと、やっぱり絵に描いたもちになってしまうのではないかという感じが、どうしても最後は落ちつくところに落ちついてしまうという感じです。

あとの商業の問題についても同様なことで、ほとんど地産地消の問題、それから商店街で市内農産物をどういうふう消化していくか、そういう問題のいろいろ関連もありますから、その辺もまた後の段階のところでもまたご議論いただければと思っていますが、今、多く出された意見を一遍整理して、ストーンと落ちるものになるかどうか、その仕掛けを一遍こちら3人で考えていきたいなと思っていますが、特に追加でご意見ございますでしょうか。

○渡部委員 今、ほとんど新垣さんがおっしゃってくださったのですが。ただ、農業振興基本計画を見直す中で、例えばそこがすごくいい場だと思うんです。市民も行政も就農者、みんなが集まって話し合える非常にいい場だと思います。そこを発展させて、例えば都市農業研究会のような、ネーミングは何でもいいのですけれども、そのようなものを発足させて、都市農業の今後のあり方やその振興の方策も、今後ずっと調査研究できるような場にしていくのも1つ、農業振興にとっていいのではないかと私は考えています。

以上です。

○谷委員 私は商業の方でいろいろ後から意見も出ささせていただきたいと思いますが、農業で私も実感するのは、近くに新鮮館があるのです。あそこによく農産物の買い物に行くんです。非常に新鮮で安くて、なぜ来ないのかという感じ。お客さんも結構来ていらっしゃるんです。だから、先ほども農業者の意見もあったように、農業を提供する場の数をかなりつくれば、これは需要があると思うのです。

ただ、直接販売するのがいいのかどうかという点では、小売業者の介入もないといけませんから、一概には言えませんけれども、少なくとも経営的に言えば武蔵野で農業をやっても食べていけるといえるのをつくらないと、きれいごとでは済まないと思うのです。いい物が欲しい、安く欲しい、いつでも欲しいというのは、消費者は勝手ですから。

新鮮館は、行ってみればわかるのですが、同じものしかないんです。スーパーに行くといろいろあるのです。要するに、時間も空間も超えて並ぶ。世界じゅうのものが並ぶわけです。何でも買えるのです。新鮮館に行くと、「これはないですか」と言うとしかられち

やって、「こんな時期にあるわけないでしょう」と言われて、「それはそうだな」と。だから、旬の野菜は確かにいっぱいあるんです。旬でないものはそこにはないわけ。しかし、旬なものが一番安くて、おいしくて、いいはずなんです。食生活を含めて少し武蔵野で農業をやっている、武蔵野で買ってきて、農業もやっているとこののでつくらないと、どういろいろ言ってみても、経営的に成り立たないと農業は続けられないと思うのです。

だから、その辺も基本計画をやるならば、事業者も含めてどうやったら商品ルート、流通に乗って農業も潤えるし、売ったお店も潤えるし、消費者も喜べる。そしていつも生産者が目に見える。

新鮮館に行っておもしろいのは、これが足りないというと、「じゃあ、今から引っこ抜いてくるよ」という。非常にいいのです。「ちょっと待っててよ」といったら、ダーッとトラックで行って、土がついたままボコンと持ってくる。本当にとってきたばかりで、土がちょっとついていますが、どう見ても新鮮。

若い人を見ていると、虫が入っていたと言う。虫も食べるんだからおいしいんだと言うんだけど、虫が入ってキャーと行って、「虫が入っていた。手を出せない」という若い人がいっぱいいるのです。虫がつくのはいいんだけど、若い人でそういうことを知らない人は、きれいでいつも虫のいない野菜は危ないんだという認識をしてもらわないと。

そういう点では、これだけ残っているということは、まだ身寄りがあって農業者もいるということは、僕はまだ希望があるので、できればその辺は商業的なベースもよく考えてあげて、援農というよりどれだけ地元での消費を本格的にしてあげるかということがないと、よその地域を手伝うというのは、僕はおこがましい。それもいいんですけども、それよりは地元の武蔵野で農業をやっている方が、やっぱりここで農業をやってよかった、いつもみんなに守られて一生懸命田んぼや、田んぼはありませんが畑を耕していても楽しいというふうにしてあげないと、先ほどおっしゃるように、絵に描いたもちになると思うので、そういう点では基本条例なんかがあるわけですから、もう少し活発化していただければ。

ただ、バランスからいうと、私も書きましたけど、農業は八十数戸ですけれども、農林水産関係職員は3人です。事業者は2055人で7人。労働はもっといるはずなのに2人です。そうすると、本当に市民の数、市民に暮らしている人たちに即した職員も配置をして、そこをベースに武蔵野で住んでも、暮らしても、生産しても生きているという自立したまちをつくっていくということを基本計画に、骨太で入れていただかないと、そこが小さい

とどうしてもやっています、やっていますという話だけになってきて、結局ジリジリ、ジリジリとすべての指標が後退していくというふうになりかねないなと思っていますので、農業も商工業もそうですけれども、ぜひその辺は基幹として据えていただけたらと思います。

以上です。

○近藤委員 皆さんがおっしゃったので、ちょっと簡単なことなんですが、将来的には皆さんが今おっしゃったことをやっていく必要があるかと思うんですが、まずさしずめ先日、私の方で元気市というのをやっているんですが、そのときにJAの方にちょっと武蔵野市のお野菜を販売したいのでということをお願いしました。

ということは、今までは近鉄百貨店のところでやっておりますので、そこの百貨店に武蔵野市のお野菜を持ってきてというわけにはいかなかった。ですが、今回はそれができるといことでやったのです。

そうしましたら、JAの方も、お野菜の販売はほとんどしていませんので非常にうれしいということをおっしゃってくださった。秋になると、いろんなお野菜がたくさん出るので、ちょっと早かったものですから、今度はその時期を私どもの方が考えましょうということで、少しなりともうちの方の、いわゆる吉祥寺の駅の周辺の人たちに、せめて武蔵野市のお野菜をという気持ちで、あつという間に売れてしまったんですが、今度やりたいということをおっしゃってくださいました。

それで1つなんですが、秋にはいろんなところで学校、青少協等のイベントがございますね。そのときにはぜひそういうお野菜を持ってきていただいて販売するという方法も1つかなと思うんです。今、本宿の方は子どもたちが1週間行きますところからわざわざ来てくださって、そのお野菜を販売してくださっているんですが、逆に武蔵野市のお野菜を販売するという形もいいのではないかと考えております。

以上です。

○久木野委員 今、谷さんが季節以外のものを欲しいといいますと、新鮮館の人に「そんなものないよ」といわれたと。例えばトマトやキュウリを冬に食べようと思ったら10倍のエネルギーがかかって、しかも10分の1しか栄養がない、そういうことですね。

今までは学校給食というのは、完全栄養とか、栄養の面とか、おいしさ、そういうことだけを追求してきましたけれど、これからは小学校もある。中学校も始まります。そうしますと当然食育ということが入ってくると思うんです。そうしましたら、そういうことも

自然に子どもから中学生から大人になっていくに従ってよくわかってくると思うんです。そうしましたら、新鮮館で冬にトマトが欲しいよというような人もだんだん少なくなり、当然それは武蔵野の農業の振興にもつながっていくのではないかと思いますけれど。

○新垣委員 時間も大分経過していますから、これを整理して、もう一回体系的にまとめたものを皆さんにお示しして、またご意見を伺うということで進めたいのですが、河田さん、何かご意見ですか。

○河田委員 さっきちょっと議論が中途になっていたのかなと思うので、たまたま隣におられるので大変あれですけれども、石川さんが、むしろふやさなければならないというところに、意見というか異なる見解を述べられた。非常に現実的な見方かもしれないけれども、これはどこから出てきたのかなと思ったら、たしか白石委員がお書きになったので、先ほどの発言のときにそれに対する何かご意見、反論があるのかなと思ったら、全然パスしちゃったので私、あれなんだけれども、これはおまとめになった方は1つの理念としてお書きになったというなら、現実にはできないけれどもやりたいなというのか、あるいは減るのはこれ以上とめて、さらに、例えば「減るのは」というのは、実際、相続の問題であるとか、宅地化するというところで、農家の人だって好きこのんでやっているかどうか知らぬけれども、ともかくいろんな背景があって減っているわけですから、これはきれいごとでいうだけじゃ、いかがかなという気は私もするんです。

白石さんにちょっとお伺いしたいのは、これはいわゆる既存の農家がやっている農地だけでなく、例えば市民農園であるとか、今いろいろ提案もございますけれども、そういったものをもう少し市内にふやしていけば、農業面積だって、農地面積だって少しふえる余地があるという意味で、むしろふやすべきだとおっしゃったのか、その辺、ちょっと議論がかみ合わなかったのか、私、最後にちょっとお願いしたいです。

○新垣委員 今のご発言については、武蔵野の農家の方が自分たちの農業をこれからどうしていきたいかというときに、今の耕作面積でいいとか悪いとか、それに対する従事者がどれだけいるかということも含めて1つは考えていく必要があるのと、兼業農家の中で後継者がいなくなる、高齢化していくという中のものについていえば、1つは先ほど河田さんもおかれたように、税金の問題で、ある程度優遇的に整備をしていくとか、それから後継者がいなくなるものについては市の方で借り上げるなり、買い上げるなりして、それを有効的に使っていくということについての言及も必要であろうし、少なくとも現状維持についての考え方は幾つか出てくるんですが、さあふやすかということについては、先ほど

のお2人のご議論の中であるように、なかなか難しい問題ではあるが、そういう気持ちと気概が必要であろうということで整理しておいた方がいいのではないかというふうに、そこは思っています。

あとまだたくさんありますから、ちょっと別途整理をしてお示ししますので、この辺で次に入らせていただきます。

次は「商工業の振興」というところです。ここは物すごく議論するものが広くて、といって農業と商工業に重点的にご意見が集まっております。

「商工業の振興」の中で特徴的なご意見は、行政は路線商業問題に意欲を感じない、もう少し意欲を感じるような行政が必要ではないかということとか、商工業の課を独立して力を入れるぐらいの気概が必要であるとか、それ以外には具体的には住民や商店街が参加したまちづくりが大切、商店街と住民とのネットワークで安心・安全の追求、大型店に頼らないで全市的に「歩いて暮らせるまちづくり」、コンパクトシティを目指す。その場合に、今のムーバス路線は、むしろそれに対して阻害要因が大きいので、路線のあり方について再考すると同時にムーバスについても一考を必要とするのではないかというご意見。職員の適正配置については、先ほど谷さんのいわれたとおりであります。

地域内経済循環で足腰の強い地域経済をとということで、「地産地消」から「地産地商」へスタンスを変えることが重要ではないか。商店街を中心としたリサイクル事業の促進。

それから、多くの方から出ているのは、そういう活動の中で地域通貨というものを実現させて、エコマネーという考え方でもあるし、地域でのエリアだけで商店街と連携して通貨をできるような、そういう形でもう少しボランティア精神を含めて整備できないだろうかという意見が多く出されております。

それから、商工業の組み立て方で、吉祥寺と路線商店と武蔵境。三鷹は全然入っておりませんという組み立て方になっておりまして、三鷹の北口に大きなツインビルができて、変わってくれば、恐らくここに書かれるだろうと思うけれども書かれていないのが実情だと思いますが、吉祥寺の商業の活性化ということは、街路灯、イルミネーションを今も駅前設置をしておりますが、もう少し集客あるような形でそういうものを設置したらどうか。ただし、その場合には省エネでやっていただけないかということ。

それから、やっぱりまちの整備。特に吉祥寺駅のロンロンの中というのは、非常に曲がりくねっていて、防災的にも非常に難しい問題があるということ、南北の関係でスムーズに移動ができるかどうか、そういうことが整備されないとなかなか地域活性化に結びつか

ないということから、吉祥寺商業の活性化についてご意見が出されております。

路線商業活性化については、たくさんの方からご意見が出されておりますが、地域コミュニティになる商店街、環境にやさしく人にもやさしい商店街、商店街の空き店舗を交流の場に、出前制度を設け、商店街と住民のネットワークで安心・安全の暖かい街づくり。個店の魅力をどうやって引き出すか。グリーンパートナー制度を活用して、環境配慮型店舗を。ここでも「地域通貨」をぜひ実現ということと、ムーバスについてはそろそろ一巡したので、見直す時期が来たのではないかという意見が出されております。

最近、テレビ等でも幾つかこういう問題について活性化のあ　るまちというのは何かということで取り上げられておりまして、阿佐ヶ谷とか下高井戸とか、幾つか近隣の街なんか紹介をされておりますが、やはり商店街の中で空き地を利用して、住民のコミュニティをそこで保障しながら託児も実現し、要するに個々の店で一遍に品ぞろえできないのは、そういうところで荷物を預かる、親切に預かるということとか、商店街自身が出前を孤独老人に対してやっていくということの対策をやった中で住民と商店街とがそこで1つのコミュニティを形成してほしいというところに皆さんのご意見が落ちついておるように感じられます。

「武蔵境商業活性化」ということでありますが、これは集客力向上をどうして図るかということでいきますと、北口に駐輪場がない。みんな南側に行ってしまうとイトーヨーカドーに吸い込まれてしまうということで、あそこの中央線の下に駐輪場がこれから設置されるやにも聞きますし、南北の道もできるということで、今以上には変わってくると思いますが、そういう指摘がございました。

商工業の振興については、これらの問題を皆さんがご指摘されておりますが、これについてご意見をください。

先ほどの農業との絡みで、元気のある商店街の中で、いかに地産地消していくかという問題も含めて、お話しいただいても結構です。どなたご意見ございますでしょうか。

○栗原委員　済みません、不勉強でもっと早く勉強しておけばよかったんですけど、長期計画でTMOということが書かれていて、中心市街地活性化ということで、市と商店街の方たちと地域とで一緒に考えてやっていくということをこれからも進めていくんだということが、長期計画そのものには書かれている。けれども、実施状況の方には、国の方の法律が変わってきたので、それは見直しをしなければならないという表現が書かれていて、余り勉強してこなかったもので、どこをどう見直していかなきゃならないのか、よくわか

らないので、そこを簡単に結構なんですけれども、ご説明いただくようお願いしたいんですが。

○新垣委員 TMOが何の頭文字をとって、どういう意味があるのかということから解説していただいて、今の答えを出してください。

○井田生活経済課長 TMOというのは、タウン・マネジメント・オーガナイゼーション、タウンをマネジメントする組織をつくろうということで始まったものです。

実は武蔵境でこれまでは、今は法律が新しくできましたので、旧の法律で、届け出制度のときに、武蔵境の一定地域を定めて中心市街地の活性化を行おうということでやりました。その結果、南口の現在プレイスになっている土地を、中心市街地活性化のための関係で買っているわけです。

実は地方のまちの疲弊化がどんどん進んでおりまして、今でもさらには進んでいるのですが、中心市街地から店がなくなってシャッター街になって、地域のロードサイドの方に大型店がどんどんできていて、まちの中心がもぬけの殻になっていて、外にばかり大きな店ができて、人の流れが変わってしまっていて、行政効率的にも非常に悪い。それから、残っている中心市街地は高齢者の方ばかりでなかなかうまくいかないということで、これまであった中心市街地活性化法が改正をされました。

今度は、内閣総理大臣が基本方針を定めて、これまでの届け出制ではなくて、認定制度という形になりました。ですから、自分のところで中心市街地をやりたいと思っても、一定の条件を満たして、内閣総理大臣がこれはいいですよと認めたものでないと中心市街地の活性化の法に基づいたものにはなれない。

それは、武蔵野みたいな、このような都会のところを意識は余りされなくて、一番困っている地方の大都市のシャッター街をいかにして復興させるかということを中心に改正をされてきているわけです。そのためには、中心市街地に人をもっと定住させるための集合住宅をつくるですとか交通の利便性を再度図り直すとか、福利施設というんですけど、福祉施設とか公共的な利便施設。病院なんかも、ややもするとこれまでロードサイドの方へ逃げちゃっていたのです。そういうのを全部中の方に戻そう、そういう仕組みに変わりました。それが新しい法律でのTMOです。

武蔵境の場合には、旧法でのTMOには手を挙げていたのですが、新法のTMOには条件で厳しいところがありまして。ただ、法律にのっとらなければ活性化ではないということではありませぬので、それも含めた形で、一応法律からは枠が外れたんですけど、武

蔵境に関しては引き続き商業的な活性化を含めて進めていこうと考えているところです。

○新垣委員 どなたか。

○西園寺委員 この商業の話では、ぜひ教えていただきたいなと思っているので、ご意見をお聞きしたいのです。特に谷さんの意見は中身がいっぱい書いてあって、読ませていただきました。

一番最後に書いてあるエコポイントをつくる、回収事業をするというのは私の意見にも書いたぐらいなんです。その上の地産地消も先ほどから言っているとおりです。

やっぱりどうしても疑問になるのはムーバスのことなんです。今のところ、ムーバスはかなり市民に受け入れられているものだと思うんだけど、この間、谷さんのご意見を聞いて、確かにお客さんが逃げていっちゃうというのは多分すごい実感だと思うんですが、かといってどうしたらいいんだろう、どういう視点を持ってきたらいいかというのが私にはちょっとわからないのですが、谷さんには何か妙案みたいなものはありますでしょうか。どうしたら皆さんの利便性と兼ね合わせたらいいのかなというのは、ぜひ教えていただきたい部分です。お願いします。

○谷委員 私の方の意見は、ペーパーで、まだいっぱい書きたいこともあったんですけども、この程度が限度かなということで、述べさせていただいたのです。

今の質問からいうと、決定打というのはなかなかないのです。ただ、最初の方に書いていますように、どう見ても武蔵野の場合は、先ほどおっしゃるように吉祥寺と武蔵境が拠点で、そこへ人も物も集中するという形。

例えば関前の人のお話を聞くと、「陸の孤島だよ」とおっしゃるわけです。そこにいけば、確かにムーバスがないと、どこに買い物に行くにも、消費生活、要するに暮らせないということになっていくと思うんです。それは、結果としてそうなったのですけれども、先ほど言いましたように、TMOとか、いろいろ政府の方も政策を出すのに成功せずに次々と変わって行って、行政主導でいくとああいうふうに変わって行って、大店法がなくなって大型店が出てきて、自然に大型店の影響を受けて路線化商店街が衰退していく。ますます不便になるので何とかしろ、こういう理屈になっていくと思うんです。

そのためにもやっぱり今後のまちづくりを考えていく場合に、私が言っていた①のところのコンパクトシティ。これはアメリカなんかでも大型店が中心だったものから、それではまちがいびつになるので見直そうという運動が始まって、そこの歩いて暮らせるまちづくりというのが、やはりげた履きでも行けて、暮らせるというまちを本当に目指してい

ないと、武蔵野の中でもいびつな武蔵野にだんだん激しくなっていけば、ここは居住だけ、ここは商業だけ、ここは風俗が集中します、こういうふうなまちになっていく。そうすると、住んでいる方からすれば、引っ越してきても住んでからしかわからない。住めなくなったらどこに行くかわからないということですから、やはり基本的に歩いて暮らせるまちづくりということを中心に据える。

そうすると、ますます少子高齢化だし、高齢化していくわけですから、近くで消費ができるというときに、やはり大型店は極力抑えて、その地元で商店を、最初もいいましたけれども、活性化させるということで行政も地域住民も消費者のことも考えていかないと、結果として自分が住んでいるところは住みにくい、消費生活もおぼつかない。東京だ、武蔵野だと言うんだけれども、大分乗っていかないとそこに出会いができないということになれば、これはだれか住んでいてもマイナスしかないのではないかな。

それから、商店街活性化懇談会ということで商店街連合会の方にも提言が出されているし、私が読んだ限りでも回答者からはそういうふうにおっしゃっています。それから、例えば先ほど言った4番目のリサイクル事業なんかも商店街が活発にしているところは、やはり商店街が、環境にもやさしい、環境にも働きますよということで、そこに参加しようという人たちがいっぱいふえる。子どもたちも来る。

品川でも有名ですけれども、エコスポットでエコポイントを上げて、書いたとおり商店街が集めたものについて少年サッカーの大会にお金を出すことによって、子どもたちも喜んでエコポイントを集めるためにペットボトルとかリサイクルについても関心を持って参加をする。商店街に行って楽しいというような、イベントについて幾つか補助金も出ているようですけれども、それはイベントはイベントなんで、年に1回のイベントだけ楽しみにするよりは、日常的に近くに住んで、これは農業ともよく似ているところがあるのです。

だから、大きな基本計画があって、緻密にやっけていかないと、なかなかある日突然ということにならないし、じわじわと壊れていくんですけれども、つくる方はかなり努力をしないと、こういうことはできません。

ただ、いろんな商店街で、例えば閉店したお店でも、若者なんかには貸したりしますと、リサイクル商品を集めて、そこに若者がまた若者を呼んで来て、若者たちが集まってくるということで、またほかの人たちも集まってくるというので成功したところも結構あるのです。

だから、起爆剤はいろいろあるんですけれども、そういうものだという認識を、住んで

いる人たちも認識し、行政の方もそういうふうな認識で政策を打ち出していただくということをやれば、これはかなり成功していくと思いますけれども、今は、これを見ている限りはその辺が全然ありません。商業地でTMだとか武蔵野に劇場をつくる、それは別に悪いことではないのですけれども、それだけが商業政策ではありません。やっぱり住んでいる人たち、働いている人たち。

それと、今みたいに就職活動がなかなか、景気がよくなったといっても就職率は悪いわけですけれども、若者たちが働ける場も、この商業が発達することによって地域で仕事にもつけれるし、若者たちもそれに参加できる。そして高齢者もそこに入入りできる。

それから、例えば高齢者の中で西新道なんかは京都で有名ですけれども、これも補助金をもらったりして成功している。持っていけなかったら商店が持っていく。ファクスなんかで注文をとったら集めて、届ける。商業組合が何点かをだれかが集めて届けてあげる。

ですから、ムーバスは人が集めるのですけれども、ここの考え方は、商店が皆さんの家に行くということですから、これなら陸の孤島にならなくても、近くの商店街を活発にすれば届けてくれるわけです。届けてくれるということは、「上がっていきなさい」とか「お茶を飲んでいきなさい」とか、いろいろお話もできるということで、お年寄りも非常に喜んでいる。

今、インターネットで西新道なんかは注文もとれるし発注もする。商店街の旅行に行くときなんかも、商店街のど真ん中に集まる。例えばどこかに遊びに行くときには、女の人だとおしゃれをしたいというので、かぼんだと大安売りして、この人たちにかぼんを買っていただければ幾らか安くしますよといって、旅行と自分の消費とが結びつくという援助をすれば、本当にお金が地域で循環できるわけですから、大型店はみんな武蔵野で吸い上げたものを本部へ持って行ってここには落ちないということですが、商店街や農業でいえば、ここで使ったものが地元でお金が回るわけですから、その点でも循環型というのは、環境もそうですけれども、お金も人も循環できるんじゃないか。この辺の知恵も生かしていただければ、情報もいっぱいありますけれども、こういう中心を置くのだというふうにしてもらわないと、自由主義の自然のものだけに放置すると、やはり私たちも住める、住んでよかったという武蔵野とは遠くなっていくんじゃないかなと思っております。

以上です。ちょっと長くなりました。

○白石委員 谷さんのご意見をうなずきながら聞かせていただいたんですが、TMOの話聞きながら、日本の農業が国の政策でだめにされていったものが、みんな地方に行って、

ここも1つの武蔵野の農業を非常に粗末にしてきたなというのと重ねて私、今、話を聞かせてもらってきたのですけれども、そういうものに左右されないで自分たちは、それこそ今、市長が言っていらっしゃるように、住んでる市民がどういうまちをつくりたいのかというのを本当に私たちがきっちり持っていないと、本当にとんでもないまちになっていくなど思いながら、今、谷さんの話を伺わせてもらいました。

それで、路線商店街のまとめた冊子がありましたね。あの中に提言されている中で、1つは地域コミュニティになる商店街をつくるということと、環境にやさしく、人にもやさしい商店街を目指すということが書かれております。その具体策として、谷さんの方から出た話が全くそうだと思うのですが、新垣さんが書いてくださった中に、1つ落ちているところが、空き店舗です。そこを大いにこれから活用しながら活性化していくという考え方が1つとても大事なんじゃないかと思います。

それで、若者たちに使ってもらおうとか、フリーマーケットをやる若いお母さんたち。あそこを活用するのは若い方たちです。それをうんと取り入れて活性化することが大事かなと思うんです。

その空き地の中に、買い物しているお母さんの子どもをちょっと預かってやるよとか、荷物をちょっと預かってやるよとか、そこへ来れば近所の人たちがお茶を飲めるよ、その中でいろんな世間話をしながらコミュニティをつくっていく、そういう中にやはり大事な環境問題なんかの情報も出していく。子育てのことで、今はこれは絶対若いお母さんに伝えていかなきゃいけないなというものも、その中で伝えていくことができるといいなと思うんです。

食べ物も、できるだけ近くの中で手づくりのものを売っていくというのを据えながら、それが少しずつ広まっていく。それがやはりエネルギーの問題と包装の問題、そんなところにもどんどん結びついていく。

それから、今、渡部さんがいらっしゃいますけれど、生活クラブ生協とかコープとか、そういうところで体にやさしいとか環境にやさしいというものを売っていますけれど、それをもっと一般化していく。それがだれでも手に入れられる、情報も手に入れられる、そういうものが私は広がっていくといいなと。そこで商店街を活性化していくというふうにつくっていくと、今もムーバスの解消から何から、解決策が見えていくのではないかなという気がしております。

これもやっぱり商店だけでもだめで、消費者だけでもだめで、行政とやっぱり三者で本

当にこれからどうしたいのかということが語られていくことから始めないと、事が始まらないかなと思っております。

以上です。

○近藤委員 今、路線商店ということでお話を聞かせていただいて、住んでいるところで非常に感覚的に違うということを、まず最初に申し上げておきます。

私は、吉祥寺の駅周辺に住んでおりますので、地域活性ということを非常に考えております。

まずは、私が武蔵野にお嫁に来まして、私の家の近辺は非常に商店と住宅が混合した、とてもいいところでした。しかし、今は大変なところになっています。本当にちょっと困るようなピンク街を抱えているところでございます。

私は、子どもが小学校に入りましてから、昭和 49 年から、今ピンク街になってしまったということ、三十何年、いわゆる環境浄化をやってまいりました。

数そのものは少なくなっております。しかし、濃厚になっています。昨年3月の末か4月の末だと思えます。新聞にも出ましたし、またテレビの報道がされたかと思うのです。ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、うちのすぐ近くで、ワンルームマンションでの売春。1年と3カ月ぐらいで1億何千万稼いだということが出ていました。見た目はよくなっても、そういうものがあるということ。だから私どもは、ワンルームマンションというのは非常に嫌だということ、をまず1つ言うておきます。

もう1つ、地域活性と言って、私どもの方に住んでいる地権者の人たちに言わせると、税金が非常に高いのです。そうすると、税金を払わなければならない、いいお店を入れたくても、やはり周りがそういうお店になってしまうと、あけておくわけにいかない。やはり貸さざるを得ない。入れたくないんだと。けども、生活していかなきゃならない。そのほとんどは、貸していらっしゃるんですが、ご自分たちはほかに住んでいらっしゃるんです。今まで住んでいらしたところをそのままの状態、外側だけがきれいになっているのです。

ですから、今のピンク街は、火事になったらメロメロだろうということと、地震が起きたらどうなるんだろうというように私ども思っています。そのくらい外枠だけがきれいになって、商売そのままやっています。その上がりで生活しているという方も大勢いらっしゃるのです。ということですので、税金が高いがゆえにせざるを得ないということもちょっと考えていただきたいということ。

地域活性で私どもも一生懸命やっているのですが、自分の土地じゃないものですから、それが非常に難しいということです。

まず、そのために私たちは空き地になれば市に買ってほしい。市に買ってもらうと、そんなに何で買うんだといわれるところもあるかと思います。しかし、そうしなければ、どうにもならないということも1つ方法だと私は思っております。

あと、今、本町コミュニティセンターがあるところの一角、あそこを今、開発公社の方が、市民とともに一生懸命やっているんですが、いわゆる共同ビル化、いわゆるオープンハウスという形で今、考えているんですが、それがどのようになっていくか。本当はそれができることによって、公社の話ですと、市で買ってもらうのもいいんですが、市のものになってしまうと、なかなかそれだけのものになるだろうけども、オープンハウスの形になると、いろんなお店が入ることができるということで、1階、2階はそういういろんなお店にして、あとはコミュニティセンターなんかを一番上に持っていくということもいろいろと考えがあるんじゃないかということ。それがいずれどうなるか、それができてしまうと、あの辺のピンク街は本当になくなるだろうと思います。

コミセンの前の通りは幅が広がることにはなっております。しかし、家を建てかえる段階で幅を広くするということですので、それはいつの時代に、いつのときになるのかということが1つの大きな問題になっていくんじゃないかということ。

あとは、中央線が通ってしまして、南と北側がしっかりとふさがれているのです。ただ、1つ吉祥寺大通り、旧近鉄の前的大通りが、おわかりかしら、近鉄の駅側の通り、ベルロードというんですけども、その通りから抜けて、横断歩道はなかったんですが、真っ直ぐ通れていたのが、危ないからということでふさいだんです。ふさがれましたら、途端にまたピンク街が多くなってしまった。

ということは、裏を、裏を、裏をとという形でああいう形のものが出てくるんです。それで私たちのまちづくりでそこにどうしても垣根を取ってほしい、またできてしまうのでということで外してもらったのですが、ちょっとずれてしまったところにしかできないということで、ちょっとずれましたけれども、一応そこに横断歩道をつくっていただいた。そうしたら、抜け道がちょっと出てくるだけで、随分違う、そういう状態なんです。

それから、初めに言いましたように、中央線が走ることによって、JRの方の利用者が多いということです。ということで、自転車を利用して来る方が多い。その自転車の置き場がないがゆえに、たくさんあるんですが、もう満タンです。それで私どもの家のどこか

角でもどこでも置いてしまう。ちょっと1台置いてあると、そこにすぐ10台、20台になってしまうという状態なのです。

だから、まず自転車を。市の方たちも今いらっしゃるので、JRの人たちに、使う人たちのスペースとして何か考えてくれと言っていたきたい。私たちも言おうと思っけていますけれども、言っていたきたいなと思うんです。

今、ロンロンが下請会社みたいな形でやっていますが、ロンロンの方たちとお話し合いをして、南北は車を通らなくてもいいから、人間だけでも通るようにやってほしいということ言ったんですが、やはりなかなか難しいと言うんです。親会社がJRですので、親があるのということを使う。

でも、話し合いをしまして、今、JRのところに、上の方に、2階に市の駐輪場をつくっている部分の下がロンロンの駐車場になっているのです。その駐車場を私はずひ商店にしてほしいと言っているんです。ということは、駐車場であるがゆえに壁になって自転車がわーっととまってしまっけて、それが一方通行になるがゆえに、車が一方通行ですので、平気で車もとまれば自転車もとまるという状態であるということなんです。その辺の事情が非常に難しいものですから、皆さんにも、吉祥寺のまちにいらっしゃるということも踏まえて、どうしたらいいのかを教えてくださいたいと思います。

○河田委員 大分時間も押してきているようなのですが、先ほどはムーバスの話が出た結論というか議論が余り詰まっけていない気がしているんですが、新垣委員がおつくりになったムーバスの再考とかムーバスの見直し、これが2カ所も出ているんです。

それについての質問に対して、谷さんもちょっと触れてお答えになったんですけれども、谷さんのご発言は大体、全く正論というか、私らもよく納得できることが多いのですが、このムーバスのことについてだけは、ちょっとどうなのかな、いかなものかなという印象はあります。

この限られたページの中に2カ所もムーバスの再考というのがあると、かなり重い話題になるんじゃないかと思っけていますので、その辺、皆さん、議論を詰める必要があるんじゃないか、こう思っけてまして、発言しました。

○石川委員 ムーバスに関しては、私はあのネットワークは、武蔵野市が一番最初にやって、最後まできちんとやっていったという面で非常にいいアイデアではないかと思っけています。

採算面は、償却まで全部考えたらあれだけ、三宅市会議員か何かが出した数字を見た

ときに、1人50円ぐらいは市が出しているかなという感じで、今、たしか延べ240万人ぐらいの人員が使っている。そういう面は私はいいと思うんです。やっぱり路線の商店街が何を売るといったときに、ああいう大型店と同じようなものを価格で競争しようと思っても、それはある意味では無理だと思います。

それで、まず生活の一番基礎になるのは食べ物です。日常の食べ物で生鮮食品の3店舗がセットになって、テレビなんかを見ていると、そういうものを復活したことによって、また商店街がある程度活性化させられたというのがあると思いますから、まず日常のそういうものを売るところがだんだんなくなってきているのをもう一回再興してつくっていく。

ところが、来る人はお客さんだけをやるのではなくて、先ほど谷さんもいわれたように、これからは高齢化社会だし、共稼ぎもあるわけだから、むしろそういうものを積極的に加工まである程度しながら出していくとか、セットにして売るとか、要するにスーパーとか何かでやっていないようなやり方をまず考えるということだと思うんです。

それと、もう1つは、あとは閉鎖した店なんかについて何をやるかというのは、先ほど谷さんがいわれたように、武蔵野は結構若い人たちが多いわけです。1割、2割が毎年変わっていく。学校も大学もありますね。ですから、そういう連中も引っ張り込んで、自分たちでそういう若い人たちが実際に店に来るようなものは何があるのか、そういうことも実際にやらせてみたらいいんじゃないかと思うんです。

それと、今度はムーバスは、確かにムーバスをやることによってお客を持っていかれたという面はあると思いますから、今度は逆に地域通貨なんですけれども、ムーバスに乗ったら、市長さんもおるのであれですけど、100円取っているなら、そのうち10円は地域通貨として地域に還元するということによって、それはその地域の商店街で使いなさいとか、もう1つ、これはちょっと私もごみなんかをやっているからあれなんですけれども、マイバッグの問題もありますけれども、そういうものを5円ぐらいスーパーで取ろうという動きがありますけども、そういうのを例えば1円なら1円、武蔵野商店街で取って、その1円というのは地域の商店街の振興に地域通貨を使うとか、そういうものを使うことによってある程度割高なものがあっても、そういうものが還元されるというのものもあるんじゃないかと思うので、要するに、ただ物を売っていくということで競争しようと思っても、それはもう無理だから、一般のスーパーとかそういうものとは違った生き方をやらないと。

この間のアンケートを見ますと、今大体繁栄している商店街というのは2割で、あと4割は停滞して、4割は衰退、こうなっているわけです。そこまではっきり出ているわけで

すから、まず衰退しているところを何とかできないのかと絞りながら、これはもちろん行政も入り、消費者も入り、本当にそういうまちをどうやったらいいか、商店街をどうやったらいいかという個々の地域で真剣にやっていくような仕組みをやらないと、なかなか無理じゃないかと。

たださっき言ったような地域通貨の問題なんかについては、また行政なんかも、ある程度ムーバスを使って便利になったという面もあるけど、そういう面も出ているのだから、そういう部分については、金の一部を還元するとか、そういう発想もあっていいんじゃないかなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

○小竹アドバイザー ちょっと終盤に入っていく時間なので、少し議論をまとめていかれるといいかと思います。

それから、ムーバスに関しましては、こちらの部会以外にも都市基盤の方がメインの項目として入っておりますので、この後にお話があると思いますが、市民会議の委員交流会のところでも、意見交換とかどういう状況になっているかというのをお聞きすることはできるかと思います。どうぞよろしくお願いします。

○新垣委員 大変難しい問題ですが、いずれにしても大型店舗に頼らないで、まちをどう活性化していくかということの仕組みを、商連なり消費者なり行政なりとあわせて考えていくという仕組みをまずつくらないと話が進まないというところからスタートすることが大事だろうと思いますし、皆さんのご意見を聞いていても、そこがかなめだろうと思います。

それから、ムーバスのことについては、経路の回り方の問題とか、とにかくスタートしてから、できたままの循環方式で変わらないと。

終末の方に乗る人は駅から 30 分もかかってやっと自宅に着く。逆に行くと、そこからその人たちが今度駅に行くにはほんの数分で行っちゃうという是非のいろいろな判断もあると思うのですが、その回り方についても、再度市民の皆さんと検討してみるということも必要じゃないか。

西久保のように商店街を避けて住宅街だけを通っているということになると、その人たちは、関前も含めて全部三鷹駅に行ってしまうということで、あそこの商店街その他についてなかなか来ないとか、三鷹駅に回っていくにすれば、緑町とか、あのあたりのところはムーバスがどう動いているのか、市民がどう使っているのか、そういうことについても一遍検討して、もう一回循環のあり方について考えるということも必要かなという意味で

の「再考」でありまして、ムーバスやめろというふうには、乱暴には言っておりません。

これをどういうふうに市民生活に役立て、路線商店の方たちに対してプラスになるのかという意味で、ぜひ再考したい。その際に、石川さんがいわれたようなポイント制による還元ということもあってもいいかなと思っています。

時間が迫っておりますが、今出されたものにさらに谷さん、まだ書き足りないという面もありますので、整理した上で、またご意見をお出しただいて、その上で皆さんのご意見を整理するというので、とりあえずここは引き取らせていただきたい、こう思っています。

残るのは防災等の関係がほとんどです。

「観光都市の推進」という問題については、回遊性のあるまちづくりということと、南町では野口雨情でまちづくりをやっていますし、何とかそれを市の方でも援助してくれないだろうかというご意見もあります。商工会議所で作りました七福神めぐりというものもスタートしました。

ただ、武蔵野市でこれという観光ポイントが非常に少ないわけです。三鷹、武蔵野のマップを見ましたら、三鷹が7割、武蔵野が3割ぐらいしかポイントが載っていない、そういう地図が今、出回っておりますが、非常に寂しいわけで、何かもうワンクッションできるような考え方を少し観光都市武蔵野市としても考える必要があるのではないか。

先ほどのムーバスと同じではないですが、市の行政機関だとか、その他税務署だとか警察だとか、そういうのを巡回するような路線があってもいいのではないかと。そういうこともいろいろ考えた上での武蔵野の観光はどうあるべきかということについて考えていく必要があるというふうには感じております。

それから、「消費生活の推進」については、消費者保護の質的充実、消費者生活センターの一層の拡充、それから商品等検査事業の充実及び不良商品情報の開示、消費者保護機能の向上強化、苦情処理への情報収集と連帯とか、具体的にいろいろ出ておりますが、現状、市がとらえられていることについて、さらにもう少し拡大強化していったらどうかということを消費者の立場からご要望が出ておるといふふうに思います。

特に目立ったのは「食育の推進」ということで、上月さんが大幅にお書きいただいたのと、あわせて安心・安全を基本とした食に対する学習をどう進めるのか。それから、食育を新事業として独立させて、柱を立てる必要があるんじゃないかというふうには、食育問題について大きくとらえる必要があるというご意見が出されております。

それから、「消費者団体の活動推進・支援」については、成果発表とかデパート、一般商店のレジ袋の1円有料化も含めて、こういうものをどうやって推進・支援していくかという問題について言及がなされております。

防犯の問題については「防犯性の高い快適なまちづくり」ということで、とりわけ近藤さんから出されております吉祥寺東口の性風俗産業の抑制と明るいまちの開発、地域活性化、それから体感不安を減らすための方法の検討、コミュニティでのこういう問題の取り組みをさらに強化していく等、幾つかの問題が提起されておりますが、もう少しこれを具体的に掘り下げる必要があるのではないかと考えています。

続いて「防犯性環境浄化」につきましては、犯罪発生可能時間帯でのパトロールを強化するというところで、1日中のべつ幕なしということではなくて、厚い薄いはあってもいいのではないかというご意見、地域住民の抑止力への十分な協力醸成を図る体制が必要ではないか。そういう意味では、コミュニティの取り組みをどうしていくかという問題が、すぐれて重要な問題だろうと考えております。

変わったところでは、「あいさつ運動の展開」ということで、あいさつの声かけ、周辺、学生、小学生その他に対してあいさつをきちんとすることがまちの中からの犯罪を減らすことになるということからいくと、声かけ運動を充実させていく必要があるのではないか。

「公共の場所へのごみのポイ捨て抑制対策」については、駅周辺以外にももうちょっと幅を広げて、やはりポイ捨てについてきちんと規制していく、もしくは監視をしていくという活動をとる必要があるのではないかと等々、出されております。

最後までちょっといっちゃいますが、「防災体制の強化」につきましては、防災グッズの安価な提供、それぞれデパートその他で買っておられるでしょうけど、結構なお値段がします。これをできれば市民に、希望の方にグッズを安価に提供するようなことについての工夫も行政の方もしていただけないか。

それから、災害支援の充実ということで、武蔵野市のコミュニティとしてではなくて、外でのことに対して関心を持つことが武蔵野市の中での災害に対する関心が高まるということからも、1つ考えていく必要があるのではないかという意味であろうかと思えます。

もちろん、先ほど言いましたように、コミュニティとしてこれをどうやって取り組んでいくかという問題が基本的なことであると言われております。職場・マンションに自主防災組織をつくったらいかがですか。プレイスに災害時機能を持たせたらどうですか。地域防災力の育成・強化という問題も言われております。これについては、市の方でも方針を出さ

れておるのですが、どこまで基本的に実施されておるのか、どこまで浸透しているのか、その辺についてもこちら側からの判断が非常に難しいところがあります。もう少し数字的に見られるような取り組みにならないかというふうに思われます。

それから、災害のときの備蓄しているのはどこだ、井戸水はどこだ、どこが避難場所になっているというマップが出されておりますが、ハザードマップという形で、過去の実績からいって、こちら辺はどのぐらいの降雨量があったら浸水の可能性があり得るとか、地震のときにはどうだろうか、そういういろんな問題についてのハザードマップがある程度必要ではないか。東京都では、大きな範囲では出されておりますが、武蔵野市できめの細かい、さらに複合的なマップも必要だろう。それに基づいて、災害避難経路とか、そのエリアの明示、どのエリアの方はどういう避難をしたらどうか、そのための避難経路の明示を電柱その他にきちんと入れていく。

それから、避難エリアの適正規模の見直し。本当にその避難エリアが、エリアとして適正な規模になっているかどうか。果たしてそこに何千人集中したら、本当にそこでもつのだろうか。じゃあもつのはどこだ、中央公園ですといったら、長い距離をどうやってそこまで避難するのかという問題も出てきますので、その辺についてももう少し明確に示す必要があるのではないか。そのための受け入れ態勢の整備と、備蓄の確保の見直しと、その備蓄品の更新をどうしていくのか。小学校が受け入れますよというときには、受け入れた小学校では、例えば排泄の問題だとか水道の問題とか何の問題、いろいろそういう問題も出てきます。その辺について、どこまで規模的に1つの小学校の避難所が耐えられるかどうか。そういう問題も出てくると思います。

それから、地域コミュニティでの防災訓練と連絡協議会の設立が急務ではないか。これは今、具体的には行われておりませんが、幾つかのコミュニティでは実際に行われているところもあるやに聞いておりますが、全部のコミュニティの中でこういうものが行われていくことによって、防災に対する考え方、機能強化が図られるのではないか。

それから、防災広場及び地区災害時避難所の整備・拡充という問題については、今、2カ所、中道通りと西久保のところに防災広場ができておりますが、これは西の方に今後どう広げていくかという問題も恐らく言われるかもしれません。西は農地がたくさんあるからいいじゃないかという問題でもないと思います。

「地域防災力の向上」についての皆さんのご意見は、地域に潜在する災害リスクを分析し、防災能力の向上を図りなさい。災害発生時を想定して平時におけるシミュレーション

等による対応準備を強化しなさいということで、マップをつくったり、いろんなシミュレーションを市民に出してみても、平時にそれに対してある程度適応した訓練をしなければ、絵に描いたもちになるということで、そういうことについても取り組みなさいというご意見が出ておりました。

「震災時における消防水利の整備」ということでは、同時多発火災時の対応をどうするかということについて、もう少し明確に出していただきたいということが言われております。

「避難所の水の確保」ということで、小学校その他にはこの施設をつくっておまして、ほぼ完備しようとしておりますが、個々の井戸水がどうなっていて、それについてはどう活用できるのかという調査もする必要があるのではないかとこのように言われております。

「自主防災組織の育成」については、災害時の被害の拡大を防ぐために、避難行動の指示体制の確立ということで、これが市民にきちんと受け入れられているかということについて、見えてこないということがあるので、ぜひこれについては見えるようにしていただけないか。

「防災・安全センター整備」につきましては、一元的に情報を収集・分析して情報発信を行うというのが、この防災センターの主な働き方であって、やっぱり瞬時にそういうものを発信するというので流言飛語に惑わされないためにも、そこを十分に強化してもらいたいというご意見。

「地域防災力の育成・強化」。これについては、いろいろ言われていますが、市と市民が共同でマニュアルをつくって体系化して、逐次実践をして、最終的に一朝有事に迅速に対応できる体制を確立する。

これはそれぞれみんな共通して同じことが言われておるのですが、そういうご意見がずっと出ておりました。特に、防犯と防災について、多くの意見が寄せられております。

そこで、簡単な方からいきますと、観光都市武蔵野については、何かご意見は特にございますでしょうか。

○小竹アドバイザー ちょっと時間が押しておりますので、なるべく手短にお願いします。

○栗原委員 そういう形で続けていくと、明らかに時間が足りないと思うんです。今、話された部分について話をすると。市民生活の分野というのは、私たちの市民生活1もそうですけれども、非常に幅広いものを含んでいますので、私たちのところも、この間、全部はできませんで、コミュニティのものと男女共同参画のことは次回にというふうにしまし

たので、ここでバタバタバッと慌てて話をするよりは、この市民生活2の分野も、もう一回やるぐらいの組み立てができないものでしょうか。

○新垣委員 最初から農業の問題、商業の問題を整理した上で、もう一回皆さんにたたき台をお示ししてご意見をいただかなければ整理できないと思っていますが、そういう意味では、後のものについては当然触れていただくという運びになると思います。

○小竹アドバイザー きょう傍聴の方も多目にいらっしゃいますし、ご意見をいただきたいと思いますので、日程を調整して、またパート2という形にするという方法もございます。

○新垣委員 基本的に皆さんに事前にお手元に届いておって、お読みいただいておりますという前提に立てばよかったですけど、どうもそうでもないようなご意見が多かったので、こういう整理の仕方になっておりますので、まことに申しわけありません。

○河田委員 私はこの整理の仕方結構だと思いますし、この内容はほぼ是認できることだけですので、大きな意見、異なる見解を述べる箇所はございません。

○小竹アドバイザー 恐らくあと確認とか、もうちょっとニュアンスとしてこうだということが個々の委員から出るということになると思うのです。

そうしましたら、次の段階に行かせていただいて、きょうテーマになっておりました市民生活2の方は、防犯以降のところ、30900番以降は次回ということによろしゅうございますでしょうか。

○栗原委員 やったのは農業と商業ですね。

○小竹アドバイザー 30600もまだですね。

○栗原委員 30600番から先がまだです。

○小竹アドバイザー 30600以降は、次回にもう一度皆さんに補強の意見を出していただくことにいたしましょう。

(2) その他

○小竹アドバイザー それではここでご議論は一度終わりということにさせていただきます、本日傍聴の方がおいでいただいておりますので、ご意見いただければと思いますが、ご発言を希望する方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。

お2人いらっしゃいますので、それでは皆さんにお諮りいたしますけれども、ご意見をいただいております。では、よろしくお願ひします。もし時間が足りない

場合は意見シートを書いていただくという形もございますので。

では、まずお名前の方からお願いいたします。

○砂川（傍聴者） 農業委員をしておりましたので、農業のことについてお話しさせていただきたいと思います。

農業委員会というものが、武蔵野市は人口の割合からいって委員選挙になっています。農業委員をすると、農家の現実というものが見えてまいりまして、先ほどの後継者の問題ですとか、税制のことに関しても、本当にリアルタイムな農地の売買のことが語られるのですけれども、農業委員会のあり方として、国分寺の農業委員会は消費者代表が入っているのです。武蔵野はその当時議会選出が4人いたのですけれども、消費者代表の方が入っていないので、都市農業を継続して考えていくためには、農業委員会に消費者代表を議会選出の委員を4人入れるよりは、消費者代表の意見を、もちろん都市農地の武蔵野としては入れていくべきではないかと思っていますので、その辺について国分寺の農業委員会がどのように消費者代表を農業委員に入れていったかとか、議会選出委員をやめていったか、その辺のことも、私、現在詳しく知らないものですから、調べられるとますますいいかなと思います。

それはどうしてかというところ、今回農業振興基本計画を変えるというところですごく重点が置かれているかと思うんですけれども、この前の農業振興基本計画も、とてもいいものだったんです。6年前につくられた農業振興基本計画のとてもいいものにもかかわらず、農地が減少していく一方で、給食に使われる野菜の比率も農家の戸数も減っているんです。だから、そういういい計画があっても、実際に継続して話される場が必要かと思いました。

○小竹アドバイザー どうもありがとうございました。それではお2人目、三宅様、お願いいたします。

○三宅（傍聴者） 三宅です。きょうはどうもありがとうございます。

きょうの商工業、農業の部分を聞いていまして、まず一番最初に思ったことが、やはり商工業とか農業について、市民がかなり傍観者になっているなというのを聞いていて感じたのです。

それで、行政側からの説明を聞くと、何か市民をすごくお客様扱いしているようなところを強く感じました。出てきている委員の方の意見を見ると、自分たちも参加したいというような、そういったコメントが多く見られて、そこら辺にギャップをちょっと感じました。

一番大事なのは、まちづくりです。商工業、農業の中に市民が参画する、そういった場が今後絶対必要だと思っているんです。

私は、小さいとき、家が本屋だったもので、ずっと商業の店の娘として育ってきて、商店街の中で遊び歩いて育ってきたんですけれども、その当時と今の武蔵野市の商業を見ると、やはり非常によそよそしくて、何か生活感がなくて、愛着を感じるようなまちじゃないなと強く感じているんです。

これからは、そういうところをもっと切り崩していくというか、一緒にまちの中に市民が入って行って、その入っていくことによって、商業の皆さんもメリットがあるなと感じて、一緒にやりたいなというふうに思っていけるような仕組みとか仕掛け、それが大事なのではないかと強く思いました。

例えば吉祥寺グランドデザイン委員会というのがありますけれども、その委員会も傍聴しているんですが、メンバーには市民がほとんど入っていないくて、まちの中の偉い人たちとか先生方が入っているのですけれども、それではやっぱりこれからのまちの方向性はつくれないのではないかと感じているんです。

だから、やはりこれからはそういった市民と商業とか農業の人たちが話し合う場、そういうのがすごく必要で、きょう出てきた意見で非常にいいなと思ったのは、瀬口さんが言ったファーマーズマーケットです。ヨーロッパのまちに行くと、市場が定期的にあって、そういう中で農業の人たち、商業の人たちと話し合っただけでなくコミュニケーションしている、そういう生活の中に具体的な経験を一緒にできるというのは、1つの突破口になるのではないかと感じました。

2つ目の視点で、今ここにいらしている皆さんは、すごくまちに関心があると思うんですけど、それをいかに広げていくかという視点をぜひ今後持っていただきたいというのが私の要望なんですけど、若い人とか、新たにまちに引っ越してきた人、武蔵野市に来た人をどうやって取り込んでいくかという仕掛けや工夫、それはやはりすごく大事で、そのための提案としては、百貨店とかの場をもっと利用してほしいと思うんです。

だから、消費者展とかも、ああいう場所でやるんじゃなくて、百貨店とか紀ノ国屋スーパーとか、ああいう格好いいところで格好よくできないのかな。そういう格好よさ、そういう格好よさが行政にはすごく欠けていると思うんです。

だから、今後それを広げていくためには、若い人を取り込んでいくためには、もっと格好よさとかセンスのよさ、それはお金をかけることではないんです。それをもっと勉強し

て、まじめにやっていけば通じるというのではなくて、格好よく楽しく、そういうふう
やっていけば絶対人は集まってくると思うので、伊勢丹とか東急百貨店の中で何かワイワ
イ、本当に行政がやっているようなイベントも、そういうところで、それをやったら人が
集まるから、うちもメリットがあるからやりたい、そういった発想の転換というのを今後
議論していただきたいなと感じました。

以上です。

○小竹アドバイザー お2方から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます
た。

それでは、傍聴人からのご発言のご希望はお2人ということでしたので、これで終わ
りにさせていただきたいと思います。

今後の進め方なんですが、今回は1月20日ということで決定しておりまして、その次
は1月30日でございます。1月20日は緑、30日は環境ということになっておりますの
で、その予定はこのままだってよろしいでしょうか。パート2はまた別に組み立てるとい
うことでよろしゅうございますね。

そうしましたら、2月の予定がまだ決まっていないのですが、事務局の方からご連絡は
ありますでしょうか。

○渡辺幹事長 では、事務局から若干のご連絡をいたします。

次回の日程の前に1つ。本日、こちらの市民会議の事務局であります企画調整課から連
絡がありまして、策定委員の選出の時期でございますけれども、3月20日火曜日まで
にお選びくださいという連絡がございました。策定委員の選出の時期は3月20日
でございます。

また、提言書の提出の時期、これは皆様方をお願いしている、まさに成果でございま
すけれども、こちらは4月20日の金曜日までをお願いしたいということです。この2点
の日程のご連絡をいたします。

次回の開催は、小竹先生からお伝えいただきまして、本日の配付資料の一番下に、い
つものような形で次回20日の開催通知をご用意してありますので、こちらをご覧
いただければと思います。

それでは、11回目以降の日程決めをお願いできればと思います。

○小竹アドバイザー それでは、いつものようにさっと挙手していただいて、決めてい
くという方法でよろしいですか。

何回やるかというのも決めた方がいいと思うのですが、1月の段階で勉強会を除いて議論をするというテーマ別の4つが1月30日で終わりますので、第2ラウンドが2月から入ることになるのです。そのときに、今も渡辺さんの方からお話がありましたように、3月20日には策定委員を選出して、4月20日、1カ月後までに提言をまとめるというスケジュールはもう決まっておりますので、2月に何回か。あと3月20日前に何回か、あるいは3月20日に選出ですから、それまでにせねばいいのですね。（「20日の夜で結構です」と呼ぶ者あり）ということなので、その前までに何回ぐらいするか。きょうの議論もまだ途中ですし、もう1点……。

○河田委員 議論としては4回やって、さらに取りまとめで、どうでしょうか、1回では済まないから2回ないし3回要るのかな、予備日まで入れると……。だから、7日ぐらいとらないと。

○小竹アドバイザー 2ラウンド目は真っさらな状態ではありませんので、きょうのプラスアルファのお仕事はできると思うんです。ですから、取りまとめの「取り」ぐらいまではいくかなと思うので、少し頑張って意見集約をしていかなければいけないかと思います。

そうしますと、2月に3回あるいは2回でできますか、どうでしょうか。さっきおっしゃったのだと、もうちょっと多目の方がいい。その辺はちょっとご意見をいただきたいのですけれども。しかも、2月は28日で短いので。いかがでしょうか。

今、河田委員から出たのは、2月に3回ぐらい。4回ぐらいということですか。

○河田委員 4回ぐらいやれば。（「きつい」と呼ぶ者あり）

○小竹アドバイザー ちょっと多いというニュアンスもありますので、3回。

○河田委員 2グループを1日でやることにすれば2回プラス1で3回ぐらい。

○小竹アドバイザー ただ、そこにもう少しまとめのレベルまで入れるとなると、なるべく早く処理した方がいいので、3回かという感じです。

1月は大変いいぐあいに、かなり早い時間に決めましたので、10日ごとに来ていて、スケジュールとしては、どこかの回に余り負担がかかるということはなくなっているんですが、もう1月で2月のスケジュールは皆さん結構埋まっていると思うんですけれども、3回をめどに決めさせていただいてよろしゅうございますか。

2月の1回目は市民生活1と2の残っている部分をやる、2月の2回目は緑と環境の部分。

○栗原委員 1回で市民生活1と2をやるということですか。

○小竹アドバイザー 1、2 ぐらいをやっていくか、どうでしょう、ちょっと難しいでしょうか。

○栗原委員 ちょっと気が遠くなりました。皆さんがそれで結構であれば。

○小竹アドバイザー 気が遠くなろうと何だろうと、とにかくやっていかなければいけないので。

締切が決まっておりますので、巻きを入れていくか、あるいは集中して集約していくかということになりますので。

では2月3回、3月は20日までの間に2回という形ぐらいで、年度末はまた皆さんお忙しいと思いますけれど。

日取りとして、いい日取りが出るかどうかはわかりませんが、それでは挙手をお願いしたいと思います。

〔日程調整〕

○小竹アドバイザー では、2月の予定をもう一度申し上げます。2月5日月曜日。2月13日火曜日、23日金曜日ということでよろしく申し上げます。

あと、3月の予定も決めてしまいますか。ふえる可能性があるという前提でお願いしたいのですが、20日までで2日ばかり決めさせていただきます。

〔日程調整〕

○小竹アドバイザー それでは、3月の予定は2日の金曜日と13日の火曜日ということで決定させていただきます。

確認をさせていただきます。2月5日は、1と2の残っているところをなるべくまとめ上げてしまう。文章にはできなくても意見の一致なり、いい出しまくるということでよろしいですね。13日は、議論はまだ1回目をやっておりませんが、緑と環境の分野でよろしゅうございますか。23日、あるいは3月2日あたりは全体のまとめと、策定委員をどなたにするかという心づもりもして行って、13日に最終となればいいですが、スケジュールが押しぎみになってきますと、もう1回あるかなという形になりますが、なるべくまとめられるように。

○栗原委員 市民生活の分野は5日までが1回目なんですね。ですから、2回目が23日に入るということになりますね。

○小竹アドバイザー そういうことになります。

○栗原委員 それで結構です。

○小竹アドバイザー ほかに何かご質問、あるいは決めておかなければいけないことはございませんでしょうか。

○西園寺委員 環境の方の担当からなんですけれども、皆さんの意見の締切についてです。

年末にお知らせしたときには、きょうを締切ということに、仮にしていたんですけれども、やはり現実には難しいようで、まだ3名の方しかいただいておりません。まあしょうがないかなと思うんです。なので、今週1週間は余裕をみますので、でも何せ1月20日には皆さんに渡せるようにしたいと思いますから、今週の土曜日までに、また例によって西園寺のところまで、ごみと環境に関する意見をお願いいたします。

緑は、もう一応締め切っております。

○渡部委員 緑についても今まとめているところなんですけど、現在9名の方しか出してくださっておりません。それで、今回、新垣さんがやってくださったように予習という形で皆さんに速達なり何なりで送りたいと思っていますので、ぜひ早急に、西園寺さんのところまでお届けください。

当日に、今回のようにきちんとまとめたものを皆さんにお配りしようと思っています。

○小竹アドバイザー なるべく早くというと、皆さんやはりだらけてしまうので。西園寺さん、先ほどおっしゃった日程は何日でしたっけ。今週中ですね。

○西園寺委員 今週の13日の土曜日まで延期します。

○小竹アドバイザー では、土曜日の夜8時までに西園寺さんのところに。そうしないと、いつまでも五月雨式に来ますと西園寺さんも大変だと思うんです。

では、土曜日の8時。

○渡部委員 緑も。

○小竹アドバイザー 緑は前から締切もありましたので、頑張ってお出しましょう。でも、子どもの宿題と同じでだんだん遅くなりますので、それはしょうがないと思います。

○栗原委員 以前、お話ししていましたヒューマン・ネットワークセンターとの意見交換を今週の金曜日の夜7時半からヒューマン・ネットワークセンターで行います。あちらは役員会の時間を少しとってください、7時半から8時半という予定で時間をとっていただいていますので、参加できる方はご一緒しましょう。

意見交換ですので、そこで何か決めるとか、そういうことではありませんで、ヒューマン・ネットワークセンターの方は、男女共同参画のことについてずっと考えて活動してこられたわけですから、そちらの方から長期計画に関してどのようなご意見を持っていらっ

しやるかということを中心に聞かせていただくというつもりでやりたいと思いますので、よろしかったらご参加ください。

○小竹アドバイザー 今週 12 日金曜日、7 時 30 分から 8 時 30 分。武蔵境の駅の……。

○栗原委員 北口。市政センターの上です。スイングのわきの道を北に行って、信号のすぐ手前の左側、2 階です。

○小竹アドバイザー これは何人の方が参加するというのを取りまとめる必要はないんですか。

○栗原委員 今の時点でご参加できるという方、ちょっと挙手をお願いできますか。ありがとうございます。5 人ぐらいで何うとお伝えしておきます。

○小竹アドバイザー そのほか、お手が挙がった方はいらっしゃいませんでしたか。よろしゅうございますか。

それでは事務局からお願いします。

○渡辺幹事長 事務局からは特にございません。

3. 閉 会

○小竹アドバイザー それでは、本日ちょっと時間を延長しましたが、これからまだ事務局からもご連絡があるので。

それでは、これで今回の第 8 回武蔵野市第四期長期計画・調整計画、緑・環境・市民生活の市民会議を終わらせていただきます。

次回は緑のテーマでございますので、皆さん予習をよろしく願いいたします。

お疲れさまでございました。

午後 9 時 36 分 閉会